

第 1 編 上原 II 遺跡

第1章 既往の調査

上原II遺跡の本調査は今回が初めてである。今回の土地改良事業に伴う発掘調査を行うに当たり、発掘調査範囲を確定するための試掘調査が、以前に行われたことがある。その時に縄文時代の遺物が発見され、本調査に至った次第である。

第2章 調査の経過

上原II遺跡の発掘調査は平成23年5月20日から開始し、途中に休止を挟みながら同年9月28日に終了した。5月20日に発掘調査地点の地権者に挨拶に伺う。5月25日から表土（耕作土とそれ以下の土）掘削を開始し、6月7日まで継続した。なお、6月1日から遺構検出作業も開始し、9日からは検出遺構の精査を開始した。

7月から上原III遺跡の調査を行うため、6月30日で一旦、上原II遺跡の発掘調査は休止した。調査の再開は7月21日からで、27日からは2号竪穴状遺構の精査を開始した。

8月5日に空中撮影を行い、現地説明会用に幾つかの遺構を残して10日に調査休止となった。

9月10日に上原III遺跡とあわせて現地説明会を行い、9月28日に残っていた遺構の調査を行い、本遺跡の発掘調査が終了した。

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、第14～16・18図のA地点、B地点の2か所で確認した。A地点は調査区西側中央付近の土層である。B地点は、調査区南端の土層である。全部で七層あり、細分される層もある。なお、B地点は沢であり、深くなつたため底まで掘りきることが出来なかつた。

第I₁層 黒褐色土

表土である。粘性は無く、しまりのある部分もあれば、無い部分もある。試掘調査66トレンチ1層を細分したものである（長野原町教育委員会2008、以下同じ）。

第I₂層 黑褐色土

表土である。粘性は無く、しまりが弱い。試掘調査66トレンチ1層を細分したものである。

第II₁層 黒色土

粘性は弱く、しまりがややある。ローム粒・礫（拳大）を微量含む。礫（φ5cm）・白色粒（φ5mm輕石か）を少量含む。試掘調査66トレンチ2層を細分したものである。

第II₂層 黒色土

粘性やや弱く、しまりが弱い。ローム粒・礫（φ10cm・5mm）・白色粒を微量含む。暗褐色土粒を少量含む。試掘調査66トレンチ2層を細分したものである。

第III₁層 黒褐色土

粘性弱く、しまりがある。炭化粒・焼土・礫（人頭大・拳大）・白色粒（φ5mm輕石）を微量含む。縄文時代の遺物を特に包含する層である。試掘調査66トレンチ3層に相当する。

第III₂層 暗褐色土

沢の覆土である。粘性弱く、しまりがややある。ローム粒・炭化粒・礫（φ30cm）を微量含む。礫（φ10cm）・白色粒を少量含む。



第12図 調査区位置図(1/2,500)

III₃層 黒色土

沢の覆土である。粘性弱く、しまりがややある。ローム粒を微量含む。礫（φ 30cm）・白色粒を少量含む。礫（φ 10cm）を多量含む。

第IV層 褐色砂質土

沢の覆土である。粘性弱く、しまりがある。礫（φ 5cm）を微量含む。礫（φ 1cm）を多量含む。黒褐色土粒・白色粒を少量含む。

第V₁層 黒色土

沢の覆土である。粘性あり、しまりがややある。ローム粒・焼土・礫（φ 30cm・5cm）を微量含む。白色粒を少量含む。

第V₂層 黒褐色土

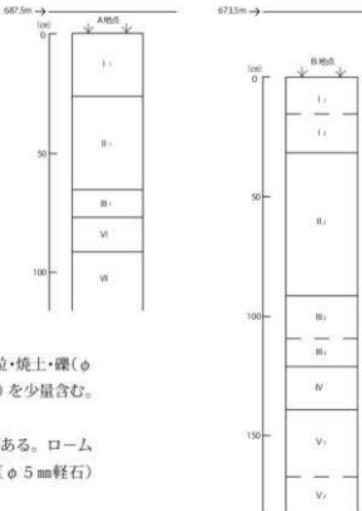
沢の覆土である。粘性あり、しまりがややある。ローム粒・焼土・礫（φ 30cm）・橙色粒を微量含む。礫（φ 5cm）・白色粒（φ 1cm）を少量含む。

第VI層 にぶい黄褐色土

いわゆるローム漸移層である。粘性は無く、しまりがある。ローム粒を多量含む。炭化粒・礫（拳大・φ 5cm）・白色粒（φ 5mm輕石）を微量含む。

第VII層 褐色土

いわゆる関東ローム層である。粘性は無く、しまりがある。ローム粒を大量含む。礫（人頭大・拳大）を少量含む。白色粒（φ 1cm輕石）を微量含む。



第13図 基本土層柱状図(1/20)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

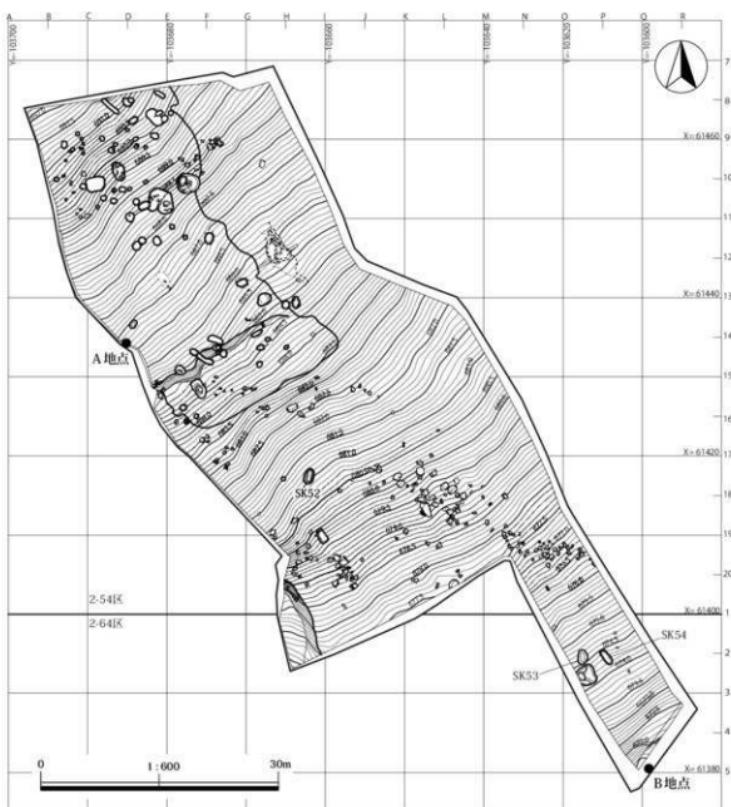
上原II遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原に所在する、縄文時代中期初頭～前葉を中心に営まれ、平安時代の陥し穴や近世ないし近代墓などが少數検出した遺跡である。

本遺跡は王城山の南麓に位置し、吾妻川の左岸段丘上に位置しているともいえる。西側には現在は砂防水路となっている押手沢が流れている。今回の調査区の東側および南側では、押手沢が氾濫してきたものと考えられる沢跡が確認された。調査区の北西部では、南南西方向に延びる微高地が確認されている。現況は調査区内が耕作地で、調査区南側には住宅が見られる。標高は、671.5 m ~ 692.2 mである。

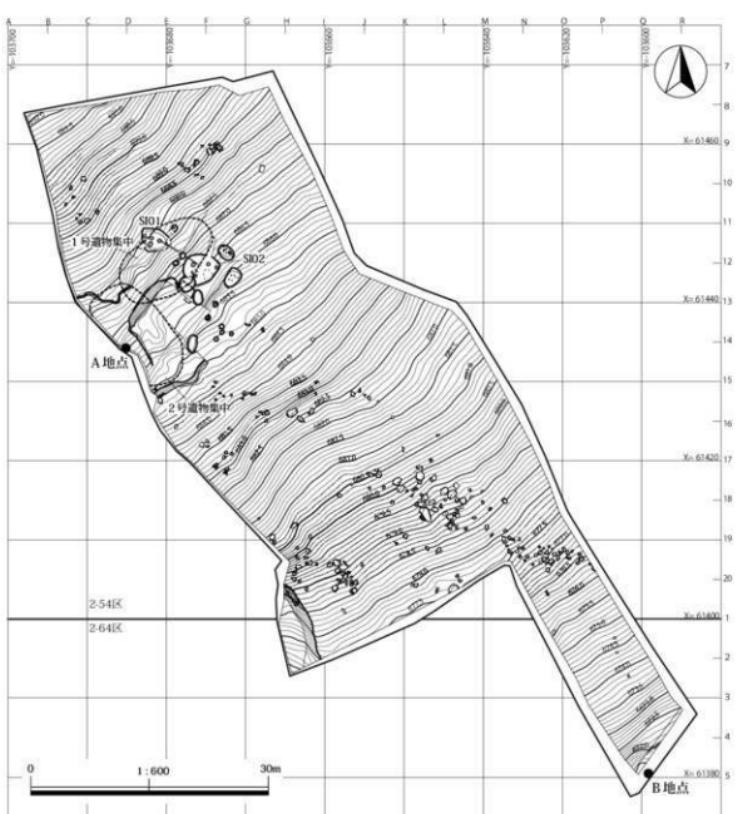
今回の発掘調査は上原II遺跡の第1次調査にあたる。調査範囲は遺跡範囲の北西側約1/6にあたり、大字林字上原1248外6筆に所在する。確認された遺構は、縄文時代の竪穴状遺構2か所、土坑44基、焼土遺構5基、遺物集中箇所2か所、性格不明遺構1か所、平安時代の陥し穴3基、近世墓の可能性のあるもの1基、近代墓と思われるもの1基が見られた。この他、近世～近代と考えられる土坑2基、覆土の状況から近世～近代の可能性があるが決め手に欠けるため時期不明とした土坑2基がある。

なお、調査中に遺構認定したものの整理作業の過程で近現代の遺構と判断し記載しなかったものがある。SK01～03・07・13～20・26～31・33・38・41・45・47・48・63・72がこれに該当する。これらは平面図のみ全体図・分割図に記載している。

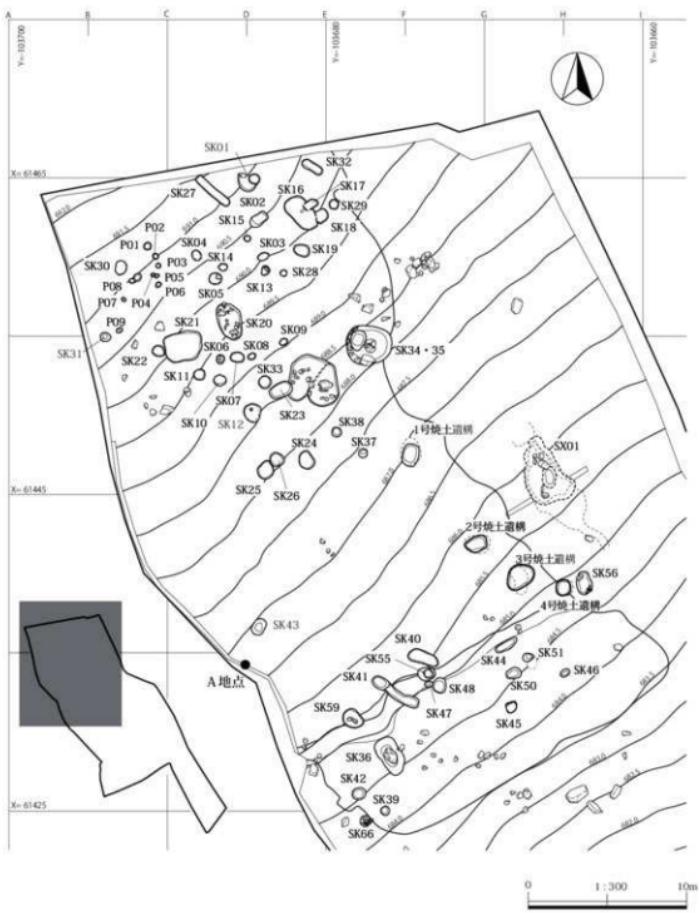
出土した遺物の種類は、縄文土器、陶磁器、古銭、石器で、その数量はテンバコで28箱分であった。



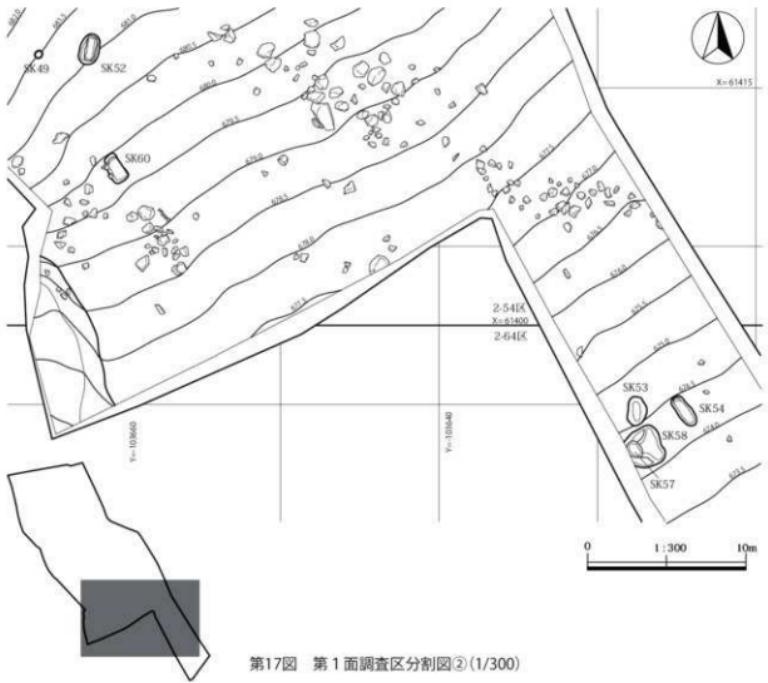
第14図 第1面調査区全体図(1/600)



第15図 第2面調査区全体図(1/600)



第16図 第1面調査区分割図①(1/300)



第17図 第1面調査区分割図(②)(1/300)



第18図 第2面調査区分割図(1/300)

第2節 繩文時代の遺構と遺物

(1) 壁穴状遺構

SI01 (第19・20図／PL 5・6・10)

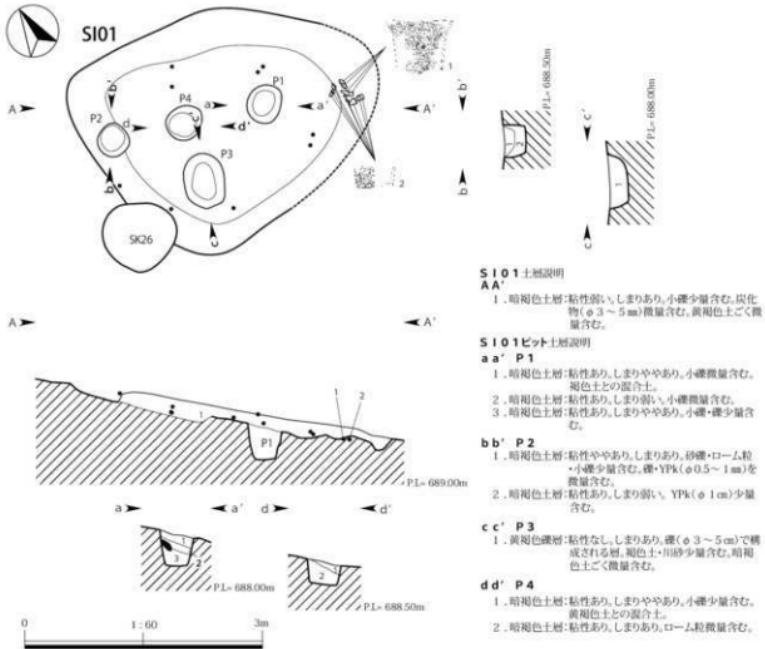
位置 2-54区D-11グリッド(2面/調査区北部中央より西寄り)。**重複関係** SK26と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 壁上部が破壊されている。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形と規模 平面形は不整形を呈する。規模は主軸3.63m、副軸2.81m、確認面からの深さは最深で15cm、床面積4.62m²を測る。**主軸方位** N-88°-W。**壁・壁溝** 壁高は北・南壁で10cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は見つからなかった。**床面** 硬化面や貼床などは認められなかった。南東に向かって下る。

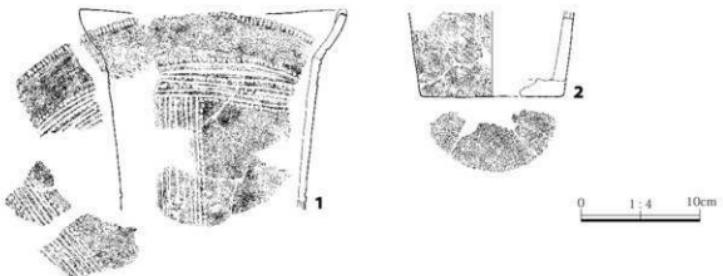
柱穴 P1～P4まで検出したが、明瞭に並びを持つものは見られない。平面形は円形を呈するものが多い。規模については第6表に記した。**炉** 炉跡は見つからなかった。**その他の施設** 特に明記すべき施設は見あたらなかった。**遺物検出状況** 本遺構全体から疎らに縄文土器が出土している。**遺物** 出土遺物は五領ケ台II式土器が多く、阿玉台Ia式土器が少量出土した。縄文土器2点を図示し得た。**備考** 炉跡が無いことや、床面の硬化面が

第6表 SI01 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	48	40	69	46
短軸長(cm)	43	38	52	43
深さ(cm)	47	29	27	35



第19図 SI01実測図(1/60)



第20図 S101出土遺物実測図(1/4)

認められないなどから住居跡と断言できず、竪穴状遺構とした次第である。遺物出土状況から阿玉台I a式土器は混入と考え、本遺構は縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式）に帰属するものと考えられる。

S102 (第21～25図／PL 6・10・11)

位置 2-54区E・F-11・12グリッド（2面／調査区北部中央）。**重複関係** SK64と重複し、本遺構の方が古い。2号遺物集中の下から本遺構が検出した。**遺存状態** 壁上部が破壊されている。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は主軸3.57m以上、副軸3.93m、確認面からの深さは最深で50cm、床面積12.08m²を測る。**主軸方位** N-50°-E
壁・壁溝 壁高は北壁50cm、南壁20cm残存、西壁40cm、東壁20cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は見つかなかった。**床面** 硬化面や貼床などは認められなかった。ほぼ平坦である。**柱穴** P1～P4までを検出したが、明瞭に並びを持つものは見られない。平面形は円形を呈するものが多い。規模については第7表に記した。

焼 明瞭にかげると見られないが、本遺構中央 第7表 S102 ピット計測表

から南東部にかけて焼土の範囲が認められた。

その他の施設

特に明記すべき施設は見あたらなかった。

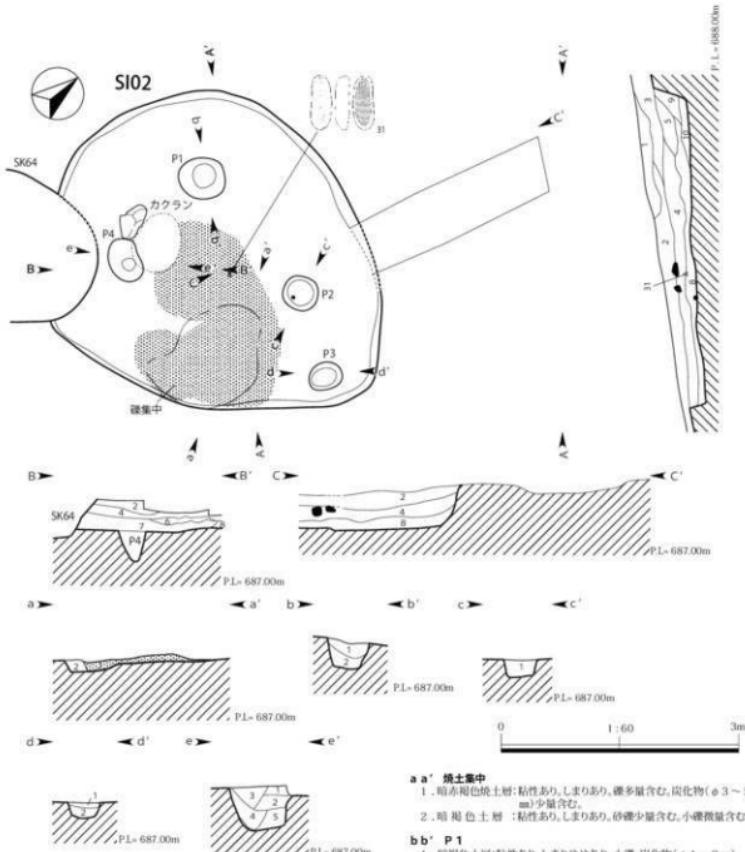
遺物検出状況

特に明記すべき施設は見あたらなかった。

本遺構全体から縄文土器が出土している。この他、黒曜

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	58	45	42	55
短軸長(cm)	52	43	34	40
深さ(cm)	39	21	21	55

石片や赤いチャートも見られた。**遺物** 出土遺物は五領ヶ台II式土器が多く、阿玉台I a式土器が少量出土した。縄文土器29点、石匙、石核、磨石を各1点図示し得た。**備考** かげ跡が無いことや、床面の硬化面が認められないなどから住居跡と断言できず竪穴状遺構とした次第である。図示するに至らなかつたがP2、P3で五領ヶ台II式土器の小片が見られた。以上のことから本遺構は縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式期）に帰属するものと考えられる。

**SI02 土壌説明****AA' BB' CC'**

1. 黒褐色土層: 黏性あり。しまりあり。小礫多量含む。炭化物(φ 1~2 mm)少量含む。褐色土の混合土。
2. 黒褐色土層: 黏性あり。しまりあり。炭化物(φ 2~3 mm)・砂礫・小礫少量含む。
3. 赤褐色土層: 黏性強い。しまり弱い。小礫微量含む。
4. 赤褐色土層: 黏性なし。しまり弱い。川砂少量含む。
5. 暗褐色土層: 黏性あり。しまりやや弱い。ローム粒・炭化物(φ 2~3 mm)・小礫・砂礫含む。
6. 暗褐色土層: 黏性ややあり。しまりあり。ローム粒・炭化物(φ 1~2 mm)・小礫・砂礫少量含む。
7. 黒色土層: 黏性あり。しまりやや弱い。砂礫少量含む。
8. 黑褐色土層: 黏性あり。しまりやや弱い。
9. 暗褐色土層: 黏性あり。しまりやや弱い。小礫・礫少量含む。
10. 黑褐色土層: 黏性あり。しまりやや弱い。砂礫・礫少量含む。

a a' 塩土集中

1. 黄褐色土層: 黏性あり。しまりあり。礫多量含む。炭化物(φ 3~5 mm)少量含む。
2. 暗褐色土層: 黏性あり。しまりあり。砂礫少量含む。小礫微量含む。

b b' P 1

1. 暗褐色土層: 黏性あり。しまりややあり。小礫・炭化物(φ 1~2 mm)少量含む。
2. 黒褐色土層: 黏性あり。しまりややあり。砂礫含む。小礫微量含む。

c c' P 2

1. 黄褐色土層: 黏性あり。しまり弱い。小礫・黄褐色の軟質な石(φ 3~4 mm)・炭化物(φ 1~2 mm)少量含む。

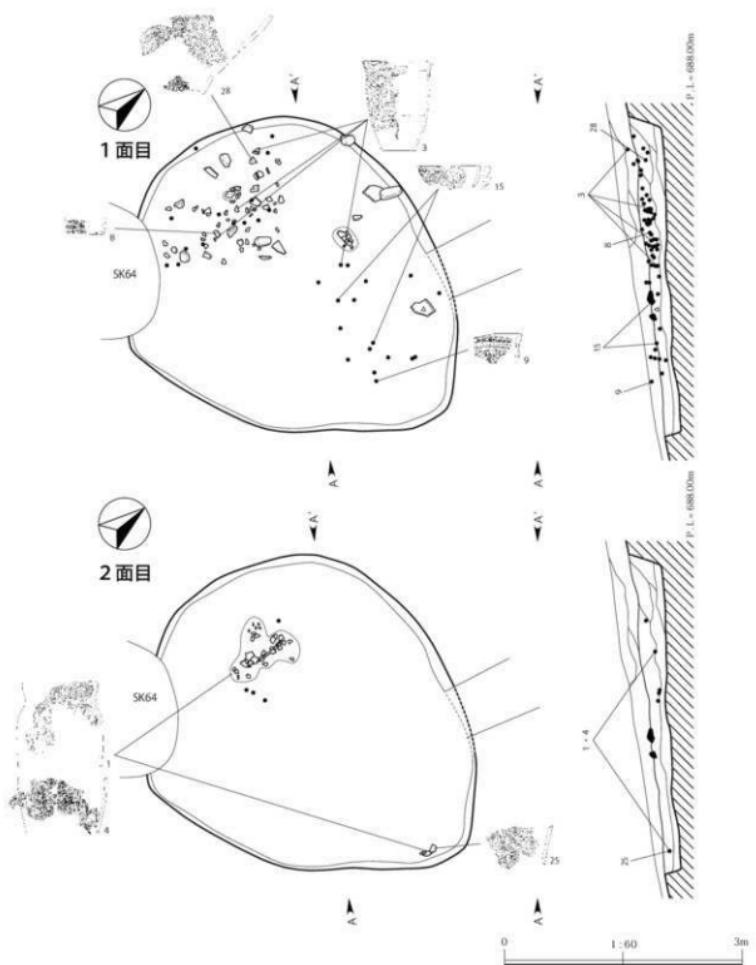
d d' P 3

1. 暗褐色土層: 黏性あり。しまり弱い。ローム粒・炭化物(φ 2~3 mm)含む。柱石(φ 3~4 cm)微量含む。
2. 暗褐色土層: 黏性あり。しまりややあり。炭化物(φ 2~3 mm)少量含む。ローム粒・小礫微量含む。

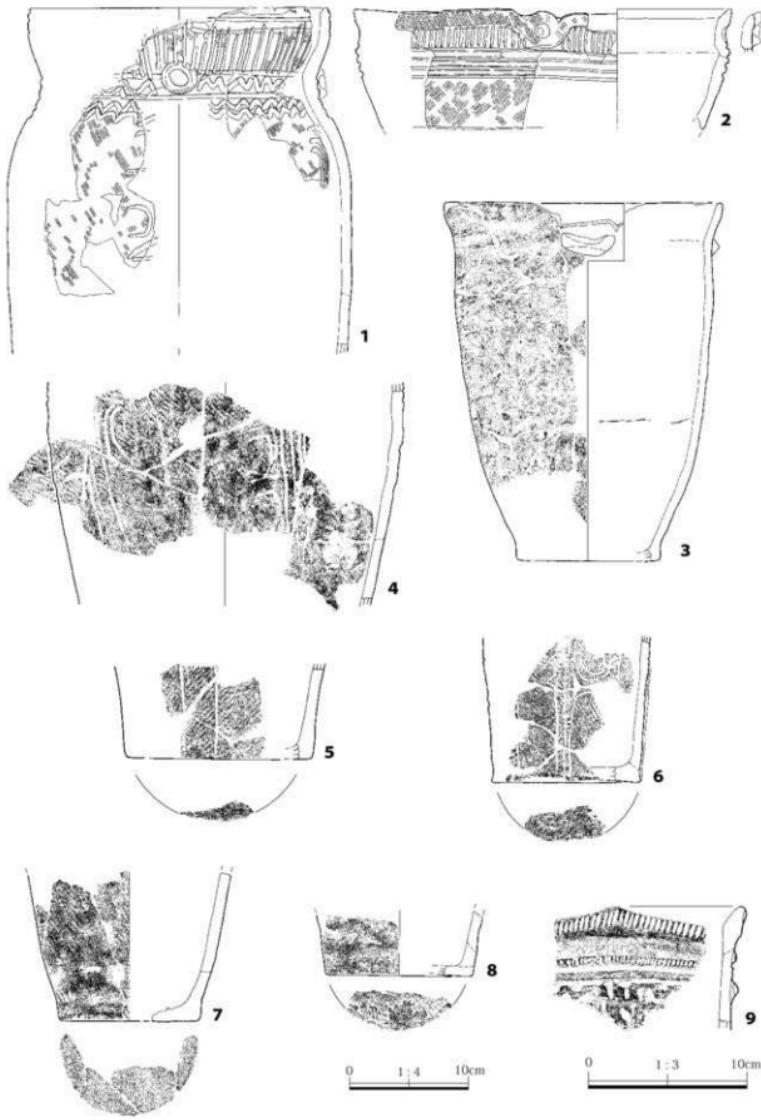
e e' P 4

1. 黄褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。小礫微量含む。
2. 黑褐色土層: 黏性弱い。しまり弱い。礫多量含む。
3. 黑褐色土層: 黏性あり。しまり弱い。炭化物(φ 1 cm)・粘性灰石(φ 1~6 mm)少量含む。
4. 暗褐色土層: 黏性あり。しまり弱い。砂礫含む。小礫微量含む。
5. 黑色土層: 黏性あり。しまり弱い。小礫微量含む。

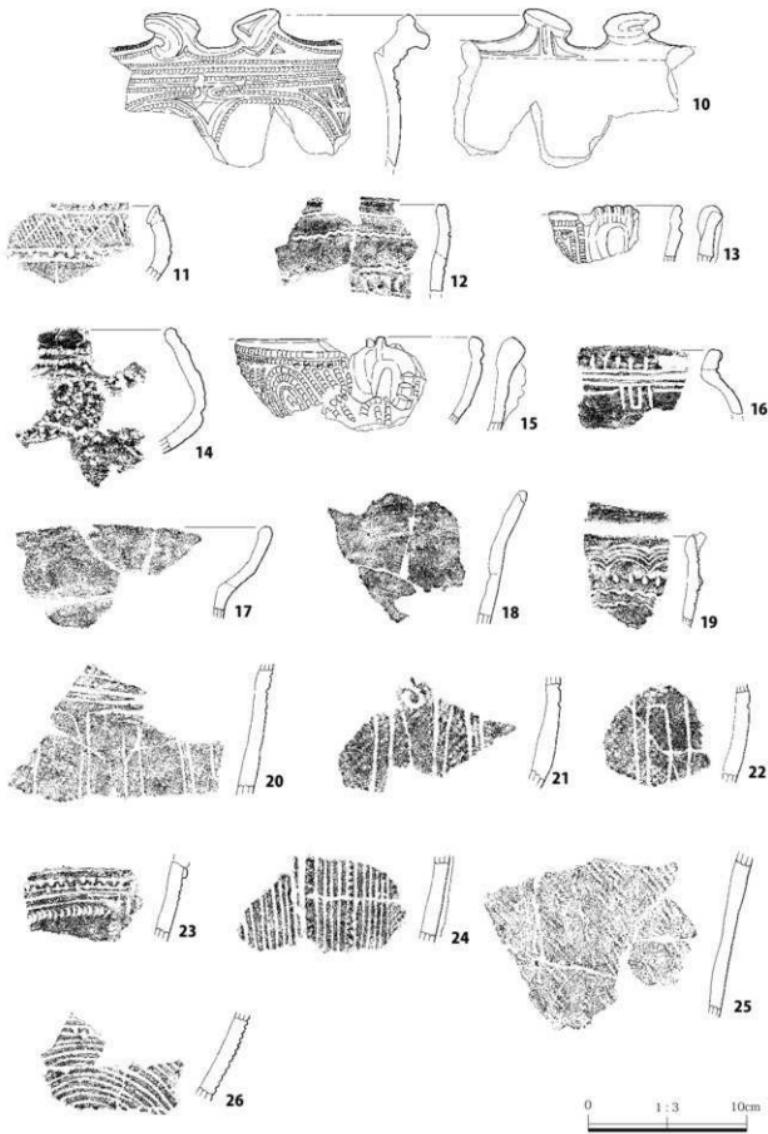
第21図 SI02実測図(1/60)



第22図 S102遺物出土状況図(1/60)

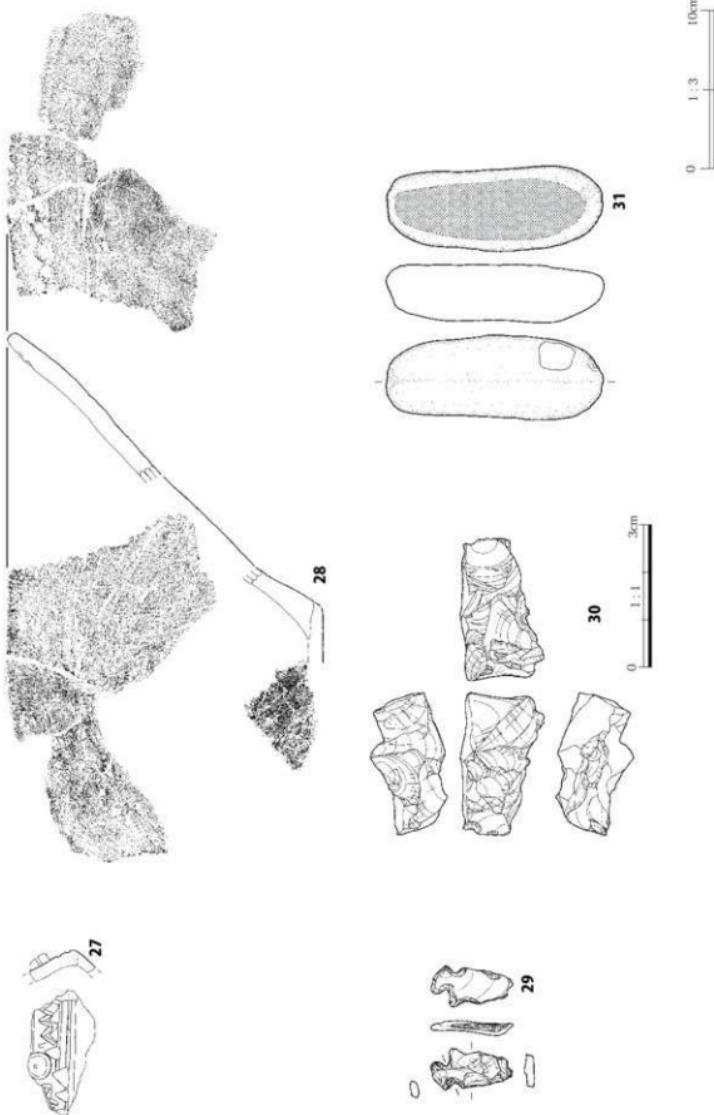


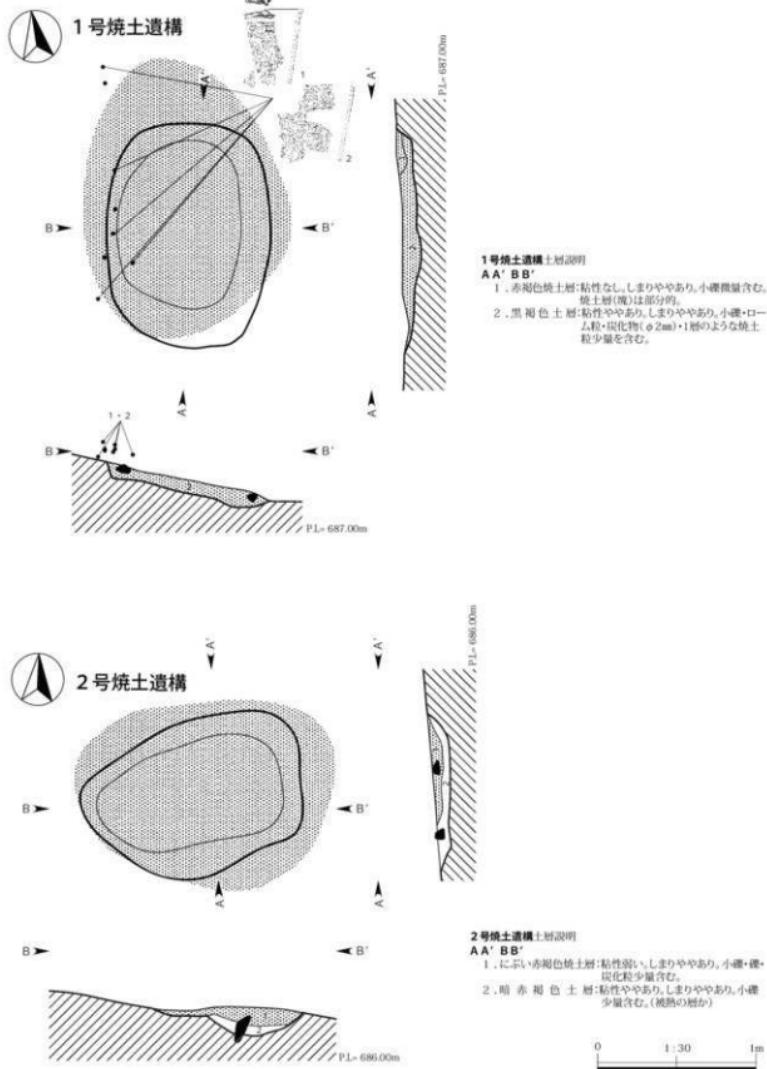
第23図 SiO₂出土遺物実測図①(1/3・1/4)



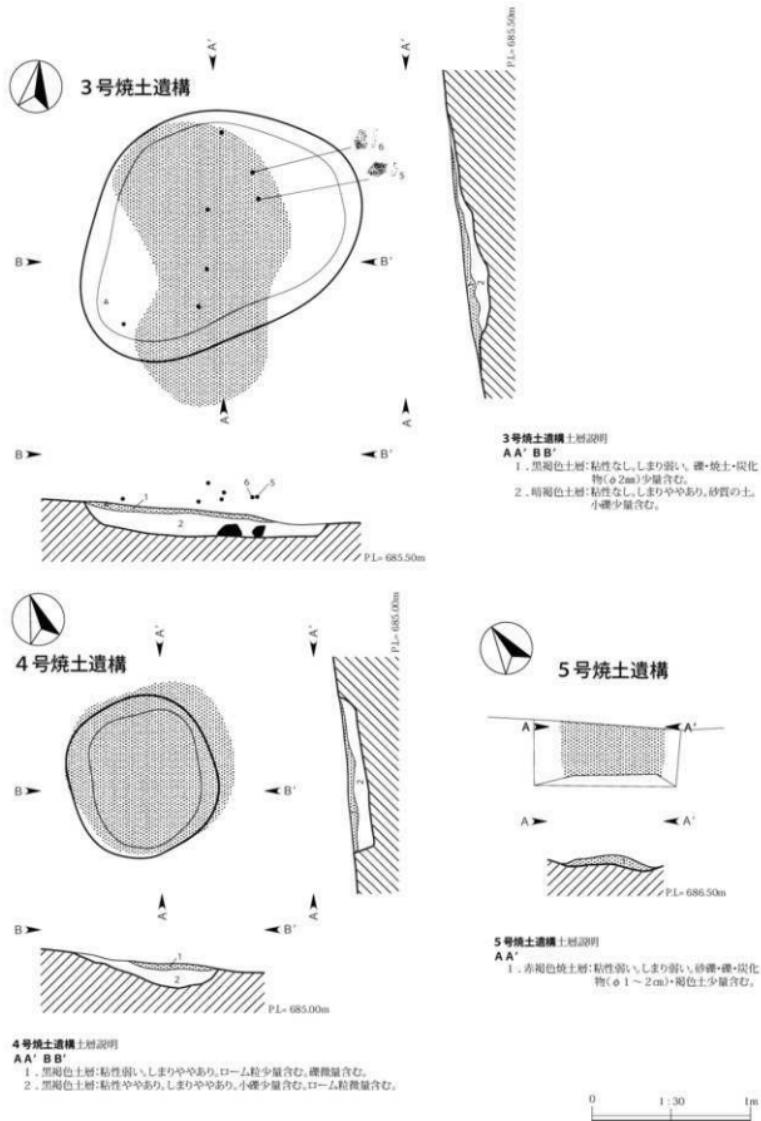
第24図 SiO₂出土遺物実測図②(1/3)

第25圖 S02出土遺物測量圖③(1/1·1/3)



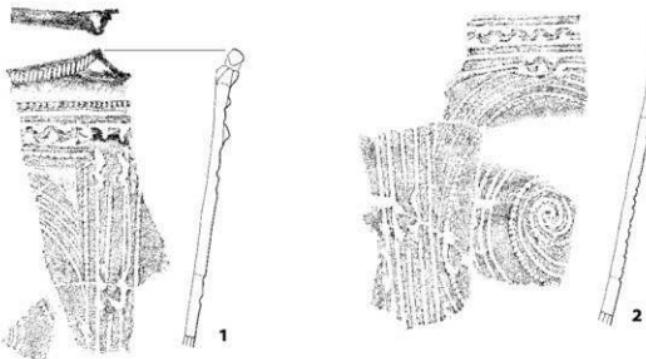


第26図 1・2号焼土遺構実測図 (1/30)

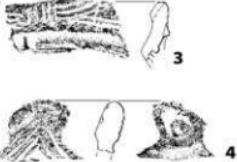


第27図 3～5号焼土遺構実測図(1/30)

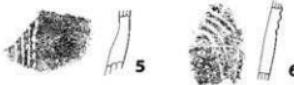
1号焼土遺構



2号焼土遺構



3号焼土遺構



0 1:3 10cm

第28図 繩文時代焼土遺構出土遺物実測図(1/3)

(2) 焼土遺構

1号焼土遺構 (第26・28図／PL 6・11)

位置 2-54区F-11グリッド(調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とする。 **平面形と規模** 平面形は焼土面が不整梢円形、掘り方は隅丸方形を呈する。規模は長軸172cm、短軸131cmを測る。掘り方は長軸141cm、短軸103cm、確認面からの深さ29cmを測る。

主軸方位 掘り方でN-8°-E。 **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 南北方向は皿状であるが、東に向かって傾斜する。 **遺物** 繩文土器2点(同一個体)を示し得た。 **備考** 焼土は表面に薄く広がる。出土遺物から縄文時代中期初頭(五領ヶ台Ⅱ式期)に帰属するものと考えられる。

2号焼土遺構 (第26・28図／PL 7・11)

位置 2-54区F-12グリッド(調査区北部中央からやや西寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 赤褐色土を基調とする。 **平面形と規模** 平面形は焼土面、掘り方ともに不整梢円形を呈する。規模は焼土面が長軸162cm、短軸120cmを測る。掘り方は長軸141cm、短軸99cm、確認面からの深さ18cmを測る。

主軸方位 掘り方でN-80°-E。 **壁面** 外傾して立ち上がるが、西壁は段状となる。 **底面** 南北方向は平坦であるが、東側は皿状を呈する。 **遺物** 繩文土器や黒曜石片が少量出土し、縄文土器2点を示し得た。 **備考** 焼土は表面に薄く広がる。出土遺物から縄文時代中期初頭(五領ヶ台Ⅱ式期)に帰属するものと考えられる。

3号焼土遺構（第27・28図／PL 7・11）

位置 2-54区G-12・13グリッド（調査区北部中央からやや東寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土を基調とする。**平面形と規模** 平面形は焼土面がヒョウタン状、掘り方は不整円形を呈する。規模は焼土面が長軸179cm、短軸101cmを測る。掘り方は長軸191cm、短軸143cm、確認面からの深さ24cmを測る。**主軸方位** 掘り方でN-54°-E。**壁面** 外傾して立ち上がるが、北壁はスロープ状に立ち上がる。**底面** 東西方向は平坦であるが、南北方向は皿状を呈する。**遺物** 繩文土器や黒曜石片、赤いチャートが少量出土し、繩文土器2点を図示した。**備考** 焼土は表面に薄く広がる。出土遺物から繩文時代中期初頭（五領ヶ台Ⅱ期式）に帰属するものと考えられる。

4号焼土遺構（第27図／PL 7）

位置 2-54区G-13グリッド（調査区北部中央）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土を基調とする。**平面形と規模** 平面形は焼土面、掘り方とともに円形を呈する。規模は焼土面が長軸105cm、短軸101cmを測る。掘り方は長軸99cm、短軸91cm、確認面からの深さ23cmを測る。**主軸方位** 掘り方でN-2°-W。**壁面** 外傾して立ち上がるが、西壁はスロープ状に立ち上がる。**底面** 南北方向は平坦であるが、東西方向は皿状を呈する。**遺物** 無文の繩文土器の小破片が1点出土したが、図示するには至らなかった。**備考** 焼土は表面に薄く広がる。出土遺物から繩文時代中期に帰属すると思われる。

5号焼土遺構（第27図／PL 7）

位置 2-54区E-12グリッド（2面／調査区北部中央より西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 上部や周囲は破壊されている。**覆土** 赤褐色焼土の純層である。**平面形と規模** 平面形は不明である。規模は長軸65cm以上、短軸32cm以上、残存する深さ6cmを測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 外傾して立ち上がると思われる。**底面** 皿状を呈する。**遺物** なし。**備考** 2面検出ということから、1～4号焼土遺構より古いとも考えられるが、古いとしても2面検出のその他の遺構や遺物の状況から、時間差はさほど無い可能性が高い。

（3）土坑

SK04（第29図）

位置 2-54区C-9グリッド（調査区北壁中央からやや西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸69cm、短軸57cm、確認面からの深さ20cmを測る。**主軸方位** N-28°-W。**壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から繩文時代に帰属するものと考えられる。

SK05（第29図）

位置 2-54区C-9グリッド（調査区北部中央からやや西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土を基調とし、検出面には炭化物のようにも見える黒色土が見られた。自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸81cm、短軸72cm、確認面からの深さ21cmを測る。**主軸方位** N-90°。**壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦であるが、大蝶が底面から現れた。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から繩文時代に帰属するものと考えられる。

SK06 (第29図)

位置 2-54区C-10グリッド(調査区北部中央からやや西寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸59cm、短軸49cm、確認面からの深さは37cmを測る。 **主軸方位** N-0° **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 凸凹する。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK08 (第29図)

位置 2-54区D-10グリッド(調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸54cm、短軸40cm、確認面からの深さ17cmを測る。 **主軸方位** N-61°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 東に向かって、やや下る。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK09 (第29図)

位置 2-54区D-10グリッド(調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸56cm、短軸40cm、確認面からの深さ21cmを測る。 **主軸方位** N-35°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK10 (第29図)

位置 2-54区C-10グリッド(調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸82cm、短軸69cm、確認面からの深さ42cmを測る。 **主軸方位** N-89°-W **壁面** 西側が外傾し、東側が内傾しながら立ち上がる。 **底面** ほぼ平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられ、いわゆる袋状土坑となる可能性がある。

SK11 (第30図)

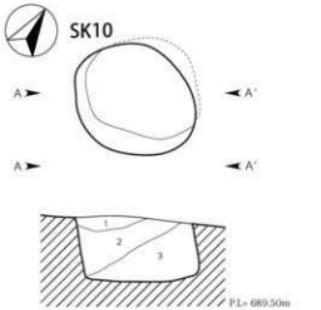
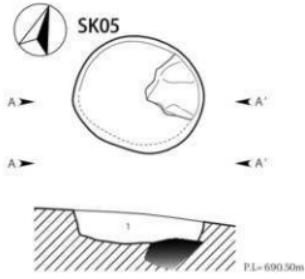
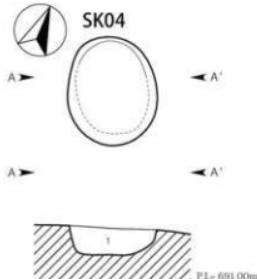
位置 2-54区C-10グリッド(調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸72cm、短軸68cm、確認面からの深さ16cmを測る。 **主軸方位** N-87°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 段状となる。

遺物 なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK12 (第30・42図/PL 11)

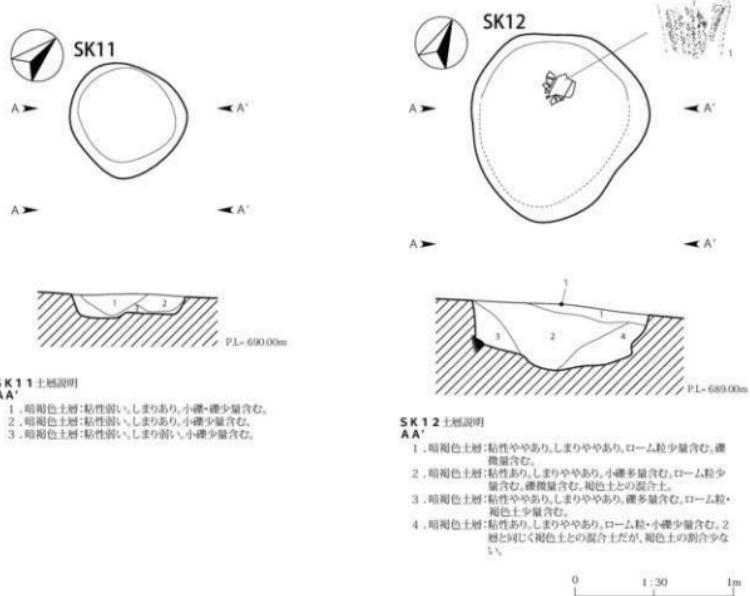
位置 2-54区D-11グリッド(調査区北部中央からやや西寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸114cm、短軸104cm、確認面からの深さ44cmを測る。 **主軸方位** N-15°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 凸凹する。 **遺物** 縄文土器1点を図示した。 **備考** 遺構検出面出土であるものの、遺物から縄文時代中期初頭(五領ヶ台II式期)に帰属するものと考えられる。



0 1:30 1m

第29図 SK04~06・08~10実測図(1/30)



第30図 SK11・12実測図(1/30)

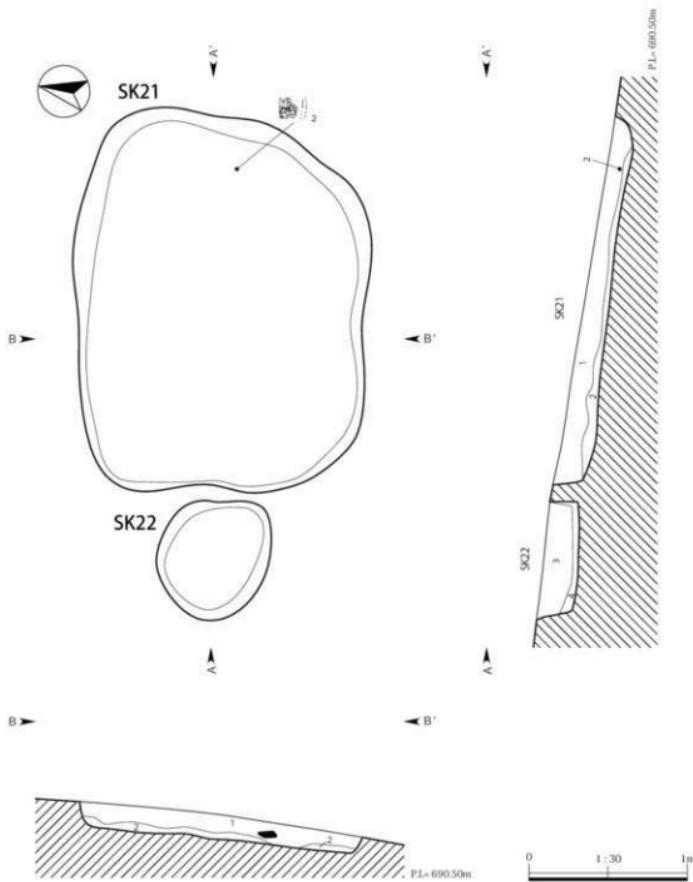
SK21(第31・42図)

位置 2-54区C-10グリッド(調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とするが、下層はしまりの弱いにぶい黄褐色土である。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整隅丸方形を呈する。規模は長軸232cm、短軸187cm、確認面からの深さ60cmを測る。 **主軸方位** N-84°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東に向かって下る。 **遺物** 繩文土器1点を図示し得た。

備考 出土遺物から縄文時代中期初頭(五領ヶ台Ⅱ期式)に帰属するものと考えられる。

SK22(第31図)

位置 2-54区B-10グリッド(調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸81cm、短軸71cm、確認面からの深さ27cmを測る。 **主軸方位** N-52°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 皿状を呈する。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。



SK21・22 土層説明
AA'・BB'

1. 細 褐 色 土 層: 黏性弱い、しまりややあり、砂礫多量含む。小礫少量含む。
2. にじみ黄褐色土層: 黏性あり、しまり弱い。(以上SK21)
3. 黒 褐 色 土 層: 黏性弱い、しまりややあり、小礫・礫少量含む。
4. 細 褐 色 土 層: 黏性弱い、しまり弱い、小礫少量含む。(以上SK22)

第31図 SK21・22実測図(1/30)

SK23（第32図）

位置 2-54 区D-10 グリッド（調査区北部中央）。**重複関係** なしだが地形の落ち込み部分に接する。

遺存状態 良好。**覆土** 黒色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸148cm、短軸92cm、確認面からの深さ50cmを測る。**主軸方位** N-65°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 平坦である。**遺物** 繩文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。

備考 出土遺物から、縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK24（第32・42図）

位置 2-54 区D-11 グリッド（調査区北部中央から西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 にほい黄褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸116cm、短軸93cm、確認面からの深さ29cmを測る。**主軸方位** N-28°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 凹状を呈する。**遺物** 繩文土器1点を図示した。**備考** 出土遺物から縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式期）に帰属するものと考えられる。

SK25（第32図）

位置 2-54 区D-11 グリッド（調査区北部中央から西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸120cm、短軸102cm、確認面からの深さ19cmを測る。**主軸方位** N-20°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 凸凹する。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK26（第32図）

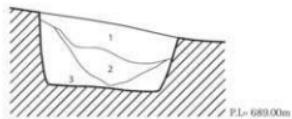
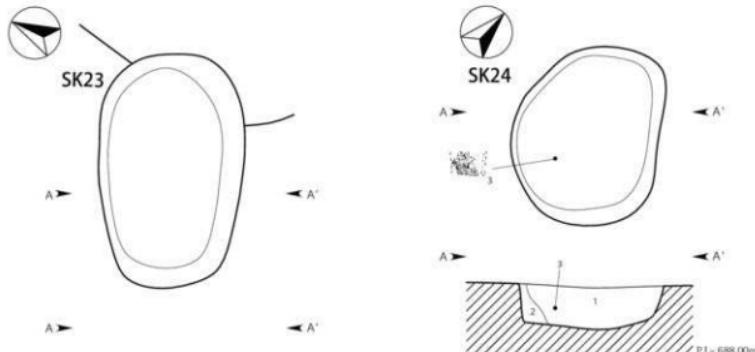
位置 2-54 区D-11 グリッド（調査区北部中央から西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。

覆土 黑褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸91cm、短軸88cm、確認面からの深さ37cmを測る。**主軸方位** N-43°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 段状となる。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK34・35（第33・42図／PL 11）

位置 2-54 区E-10 グリッド（調査区北部中央）。**重複関係** SK35はSK34より新しい。**遺存状態** SK34埋没後にSK35が形成される。両構造とも大礫や根のカクランなどにより、形状を把握しづらい。

覆土 SK34・35ともに黒色土を基調とし、自然堆積を示す。特にSK34は大礫が目立つ。**平面形と規模** 平面形はSK34が円形を呈し、SK35は楕円形を呈する。規模はSK34が長軸290cm、短軸248cm、確認面からの深さ104cmを測る。SK35が長軸128cm、短軸92cm、確認面からの深さ90cmを測る。**主軸方位** SK34はN-83°-W、SK35はN-17°-E。**壁面** SK34は外傾して立ち上がる。SK35は階段状に立ち上がる。**底面** SK34は概ね平坦である。SK35は東に向かって下る。**遺物** SK34で縄文土器1点を図示した。**備考** SK34は出土遺物から縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式期）に帰属するものと考えられる。SK35は遺物の出土は認められないが、土坑はSK34埋没後に形成されたこと、覆土がSK34に似ることなどから、SK34より新しいものの、近しい時期に帰属するものと考えられる。

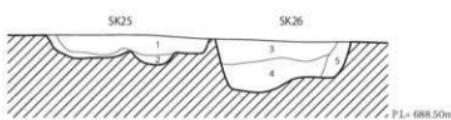
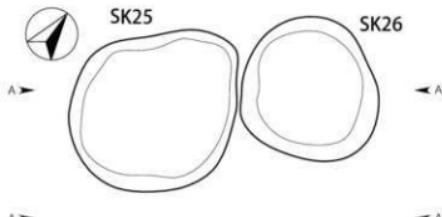


**SK23 土層説明
AA'**

1. 黒色土層: 粘性ややあり、しりりややあり。小礫多量含む。ローム粒少含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しりりややあり。ローム粒多量含む。
3. 茄褐色土層: 粘性ややあり、しりりややに似る黄褐色土との混合土。小礫少量含む。ローム粒微量含む。

**SK24 土層説明
AA'**

1. に似る黄褐色土層: 粘性ややしりりややあり。小礫・ローム粒少含む。褐色土との混合土。
2. 茄褐色土層: 粘性ややあり、しりりややあり。小礫多量含む。

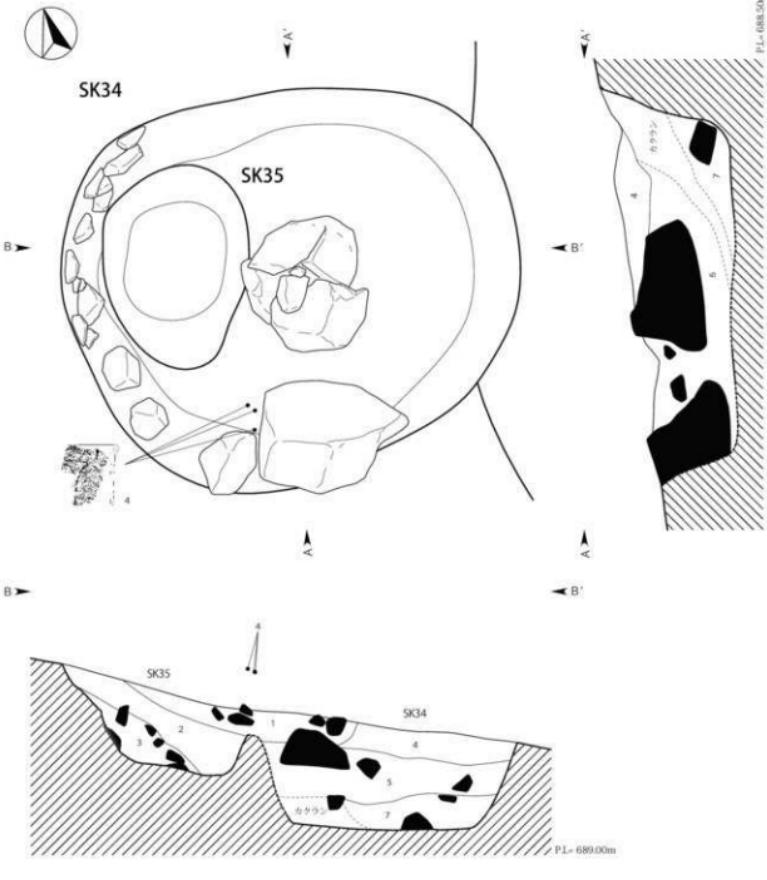


**SK25・26 土層説明
AA'**

1. 黑褐色土層: 粘性なし。しりりあり。砂礫・小礫・疊少含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しりりややあり。に似る黄褐色土との混合土。(以上SK25)
3. 黑褐色土層: 粘性なし。しりりあり。小礫・疊少量含む。
4. 茄褐色土層: 粘性ややあり、しりりややあり。小礫・疊微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しりりややあり。小礫・疊少量含む。(以上SK26)



第32図 SK23～26実測図(1/30)



**SK34・35土層説明
AA' BB'**

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、小礫・礫少量含む、ローム粒微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒・小礫・礫少量含む。(SK35)
3. 黒色土層：粘性ややあり、しまり弱い、礫（争大）多量含む、暗褐色土との混合土。(SK35)
4. 黑褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、小礫多量含む、Ypk粒(φ3mm)少量含む、ローム粒微量含む、黒褐色土との混合土。
5. 黑褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、礫少量含む。
6. 黑色土層：粘性弱い、しまり弱い、礫多量含む、大礫少量含む。
7. 黑色土層：粘性弱い、しまり弱い、礫少量含む。(以↑SK34)

第33図 SK34・35実測図(1/30)

SK37（第34図）

位置 2—54 区E—11 グリッド（調査区北部中央）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 57cm、短軸 53cm、確認面からの深さは 39cm を測る。 **主軸方位** N—0° **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹状を呈する。

遺物 縄文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から、縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK38（第34・42図／PL 11）

位置 2—54 区E—11 グリッド（調査区北部中央）。 **重複関係** SK63 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 64cm、短軸 62cm、確認面からの深さ 38cm を測る。 **主軸方位** N—47°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 平坦である。 **遺物** 縄文土器及び黒曜石片が出土し、縄文土器 3 点を図示し得た。

備考 第42図5はSK64出土資料と接合関係を持つ。どちらに属すか判断の難しい所であるが、本遺構の方が斜面の上に位置することや、破片の大部分が存在することから、本遺構に帰属するものと考えた。出土遺物から縄文時代中期初頭～前葉（五領ヶ台II式～阿玉台Ia式期）に帰属するものと考えられる。

SK39（第34図）

位置 2—54 区E—15・16 グリッド（調査区中央西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 57cm、短軸 55cm、確認面からの深さ 26cm を測る。 **主軸方位** N—29°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

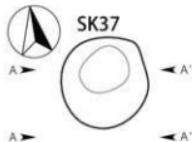
SK40（第34図）

位置 2—54 区F—14 グリッド（調査区中央部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 200cm、短軸 83cm、確認面からの深さ 28cm を測る。 **主軸方位** N—72°—W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 凹状を呈する。 **遺物** 縄文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK42（第34・42・43図／PL 7・12）

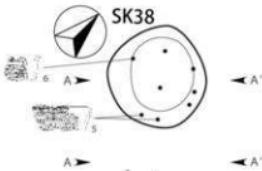
位置 2—54 区E—15 グリッド（調査区中央西部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とする。3層を見るといわゆる壁崩落にともなう三角堆積とも考えられるが、土器が埋納された土坑と考えると人為堆積の可能性が高いだろう。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 88cm、短軸 75cm、確認面からの深さ 56cm を測る。 **主軸方位** N—78°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面**

概ね平坦である。 **遺物** 覆土や床面から遺物が出土し、第42図7は床直遺物で横に傾いて出土した。口縁部付近に石英の塊が乗っており、隣には扁平な安山岩（俗にいう鉄平石）が見られた。縄文土器 5 点、スクリレイバー 1 点、石核 1 点を図示し得た。 **備考** 同図7から本遺構は縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式期）に帰属するものと考えられ、その他の遺物も概ね同様の年代であろう。



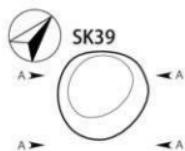
**SK37 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒・砂粒・小礫少量含む。にがい黄褐色土との混合。
2. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。小礫(Φ3~4mm)少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性あり。しまりややあり。小礫(Φ3~4mm)微量含む。



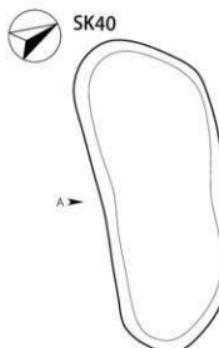
**SK38 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・砂粒・小礫少量含む。にがい黄褐色土との混合。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒・小礫少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒・砂礫・小礫少量含む。1層上に多めににがい黄褐色土との混合土。
4. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。小礫少量含む。ローム粒少量含む。にがい黄褐色土との混合土。



**SK39 土層説明
AA'**

1. にがい黄褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒少量含む。小礫微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。小礫少量含む。
3. 鞍褐色土層: 粘性弱い。しまりややあり。小礫少量含む。



**SK40 土層説明
AA'**

1. 暗褐色土層: 粘性なし。しまりややあり。小礫多量含む。ローム粒少量含む。
2. 暗褐色土層: 粘性なし。しまりややあり。礫少量含む。



**SK42 土層説明
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒・炭化物(Φ2mm)・礫少量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。砂礫・小礫少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。砂礫・小礫少量含む。

0 1:30 1m

第34図 SK37~40・42実測図(1/30)

SK43 (第 35・43 図)

位置 2-54 区 D-13 グリッド (調査区中央西部)。 **重複関係** 2号遺物集中と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 110cm、短軸 78cm、確認面からの深さ 58cm を測る。 **主軸方位** N-37°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 階段状となる。 **遺物** 繩文土器 1点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK46 (第 35 図)

位置 2-54 区 H-14 グリッド (調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 66cm、短軸 44cm、確認面からの深さ 29cm を測る。 **主軸方位** N-55°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 階段状となる。 **遺物** 繩文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK49 (第 49 図)

位置 2-54 区 H-17 グリッド (調査区中央部西側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土・暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 53cm、短軸 47cm、確認面からの深さ 13cm を測る。 **主軸方位** N-44°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK50 (第 35・43 図／PL 12)

位置 2-54 区 G-14 グリッド (調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸 94cm、短軸 72cm、確認面からの深さ 46cm を測る。 **主軸方位** N-63°-E **壁面** 北壁は階段状に立ち上がり、南壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 平坦である。 **遺物** 少量の繩文土器片や黒曜石片が出土した。繩文土器 2 点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期初頭 (五領ヶ台 II 式期) に帰属するものと考えられる。

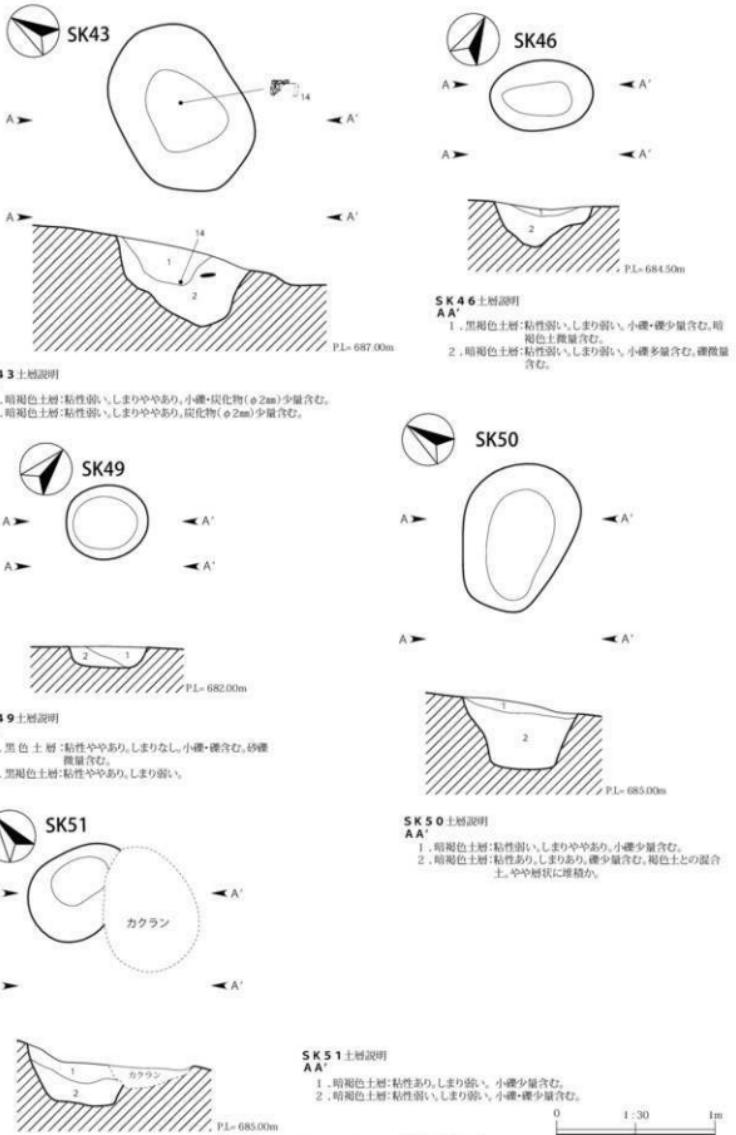
SK51 (第 35・43 図／PL 12)

位置 2-54 区 G-14 グリッド (調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東側 1/5 ほどがカランにより破壊される。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈すると思われる。規模は長軸 68cm 以上、短軸 53cm、確認面からの深さ 40cm を測る。 **主軸方位** N-84°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片がわずかに出土した。繩文土器 2 点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期初頭 (五領ヶ台 II 式期) に帰属するものと考えられる。

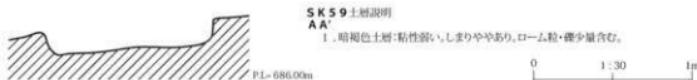
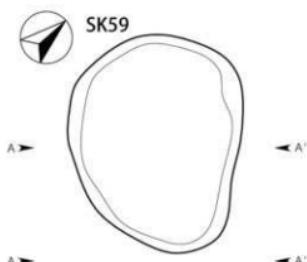
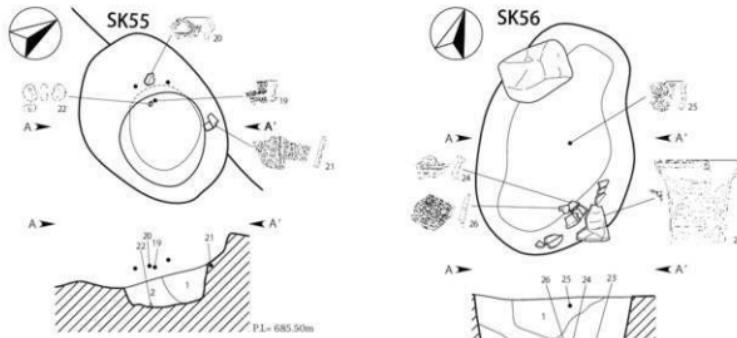
SK55 (第 36・43 図／PL 7・12)

位置 2-54 区 F-14 グリッド (調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南壁の上部が破壊されている。 **覆土** 暗褐色土を基調とする。上部が破壊されているため、堆積状況は一部不明であるが、埋納された土坑と考えられ、人為堆積の可能性があろう。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 59cm、短軸 54cm、確認面からの深さ 28cm を測る。 **主軸方位** N-71°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 概ね平坦である。 **遺物** 大珠が底面から出土し、繩文土器はやや高い位置から出土している。出土



第35図 SK43・46・49～51実測図(1/30)

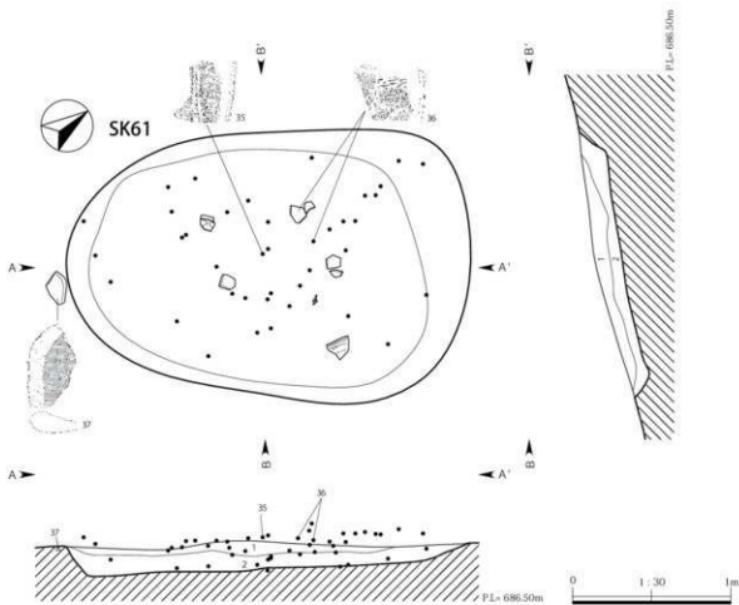


第36図 SK55・56・59実測図(1/30)

遺物のうち縄文土器3点、大珠1点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台I a式期）に帰属するものと考えられる。

SK56 (第36・44図／P L. 12)

位置 2—54 区H—13 グリッド（調査区中央部よりやや東寄り）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。
覆土 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整橢円形を呈する。規模は長軸147cm、短軸100cm、確認面からの深さ58cmを測る。 **主軸方位** N—5°—E **壁面** 外傾して立ち上がる。
底面 橋ね平坦である。 **遺物** 遺物の出土状況から本遺構が埋没してゆく最後の頃に、遺物が流れこんだことが窺える。縄文土器4点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台I a式期）か、その少し前に帰属するものと考えられる。



SK61 上部説明
AA' BB'

1. 喀褐色土層：粘性あり。しまりややあり。ローム粒・炭化物（φ 2～3mm）少量含む。漂砾量含む。
2. 喀褐色土層：粘性あり。しまりややあり。ローム粒・砂礫・炭化物（φ 3～4mm）少量含む。

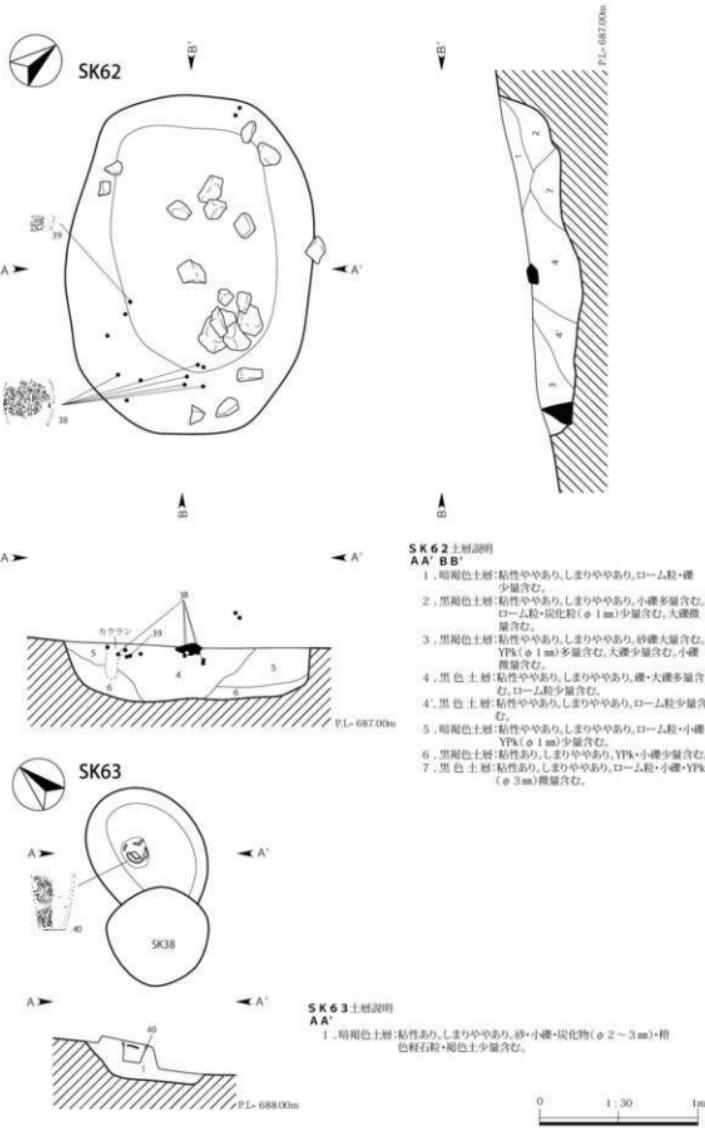
第37図 SK61実測図(1/30)

SK59 (第36・44図／PL 12)

位置 2-54区E-14グリッド（調査区中央部西側）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とする。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸139cm、短軸112cm、確認面からの深さ23cmを測る。**主軸方位** N-56°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器がわずかに出土し、繩文土器1点を図示し得た。**備考** 出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ia式期）に帰属するものと考えられる。

SK61 (第37・44・45図／PL 13)

位置 2-54区F-12グリッド（2面／調査区北部中央）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、炭化物を少量含む。自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸255cm、短軸172cm、確認面からの深さ44cmを測る。**主軸方位** N-54°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南に向かって下る。**遺物** 繩文土器片が多量に出土し、黒曜石片も出土している。繩文土器8点、石皿1点を図示し得た。**備考** 出土遺物から縄文時代中期初頭～前葉（五領ヶ台II式～阿玉台Ia式期）に帰属するものと考えられる。



第38図 SK62・63実測図(1/30)

SK62 (第38・45図／PL7・13)

位置 2-54区F-11グリッド(2面／調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸214cm、短軸156cm、確認面からの深さ53cmを測る。 **主軸方位** N-50°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。

底面 皿状を呈する。 **遺物** 繩文土器や黒曜石片が出土し、縩文土器2点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縩文時代中期初頭～前葉(五領ヶ台Ⅱ式期～阿玉台Ia式期)に帰属するものと考えられる。

SK63 (第38・45図／PL8・13)

位置 2-54区E-11グリッド(2面／調査区北部中央)。 **重複関係** SK38と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 南壁がSK38により破壊され、底面が若干残る。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。

平面形と規模 平面形は橢円形を呈するとと思われる。規模は長軸89cm以上、短軸70cm、確認面からの深さ30cmを測る。 **主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東に向かって傾斜する。 **遺物** 縩文土器1点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縩文時代中期初頭(五領ヶ台Ⅱ式期)に帰属するものと考えられる。

SK64 (第39・45図／PL8・13)

位置 2-54区E-12グリッド(2面／調査区北部中央)。 **重複関係** SI02と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 1層は水の流れによる黄褐色の川砂が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸211cm、短軸186cm、確認面からの深さ32cmを測る。

主軸方位 N-61°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** やや凸凹する。 **遺物** 縩文土器4点を図示し得た。 **備考** 出土遺物から縩文時代中期前葉(阿玉台Ia式期)に帰属するものと考えられる。

SK65 (第39図)

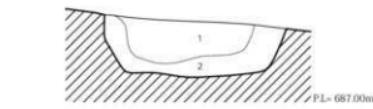
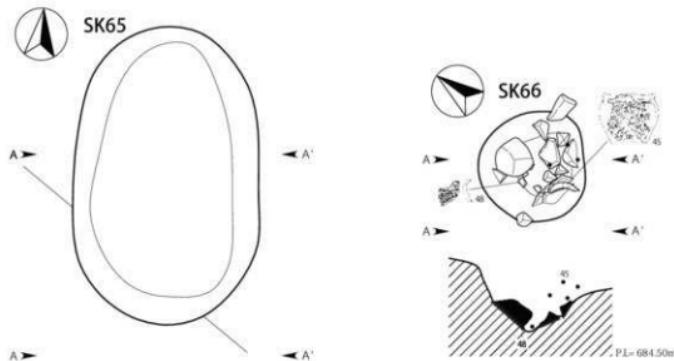
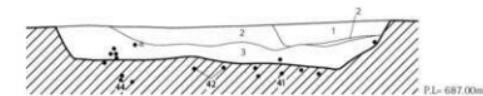
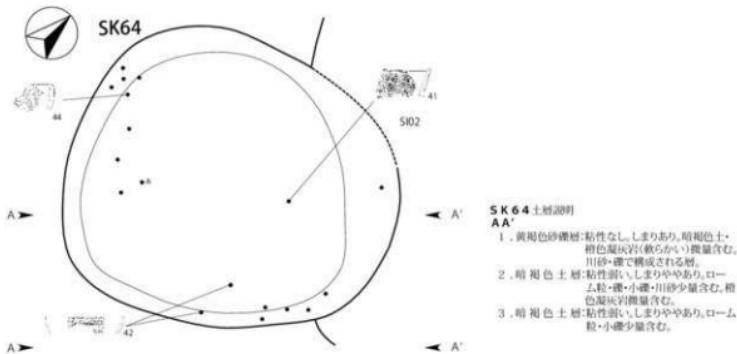
位置 2-54区E-12・13グリッド(2面／調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

覆土 暗褐色土・褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸188cm、短軸118cm、確認面からの深さ40cmを測る。 **主軸方位** N-7°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 横ね平坦である。 **遺物** 縩文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。

備考 出土遺物から縩文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK66 (第39・46図／PL14)

位置 2-54区E-16グリッド(調査区中央部西壁寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 樹木の根によるカクランで南壁が上半分ほど破壊されている。 **覆土** 暗褐色土を基調とする。礫が多く含まれる。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸71cm、短軸68cm、確認面からの深さ40cmを測る。 **主軸方位** N-90° **壁面** 北壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 薬研状である。 **遺物** 縩文土器や黒曜石片が少量出土し、縩文土器4点を図示し得た。 **備考** 根によるカクランで動いたものであろうが、出土遺物から、縩文時代中期初頭(五領ヶ台Ⅱ式期)に帰属すると考えられる。



SK65 土壌剖面

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。しまりあり。砂礫多額含む。小礫・ローム粒少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性ややあり。しまりあり。砂礫・小礫少量含む。炭化物(Φ 2 mm)微量含む。



第39図 SK64～66実測図 (1/30)

SK67（第40図）

位置 2-54 区 E-12 グリッド（2面／調査区北部中央）。**重複関係** なし。**遺存状態** 2号遺物集中形成時に本遺構が影響を受けた可能性があり、南北の壁で立ち上がり方が異なる。**覆土** 暗褐色土を基調とする。2号遺物集中の影響の可能性があり、自然堆積とは言い難い堆積状況である。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 75cm、短軸 57cm、確認面からの深さ 56cm を測る。**主軸方位** N-79°
壁面 垂直ないし外傾して立ち上がったのち、2号遺物集中形成時に本遺構が影響を受けたためか、北壁は階段状となり、南壁はやや外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器が少量出土したが、図示するには至らなかった。**備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK68（第40図）

位置 2-54 区 E-13・14 グリッド（2面／調査区北部西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とする。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 223cm、短軸 117cm、確認面からの深さ 56cm を測る。**主軸方位** N-8°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 皿状を呈する。**遺物** 繩文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。**備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属するものと考えられる。

SK69（第40図）

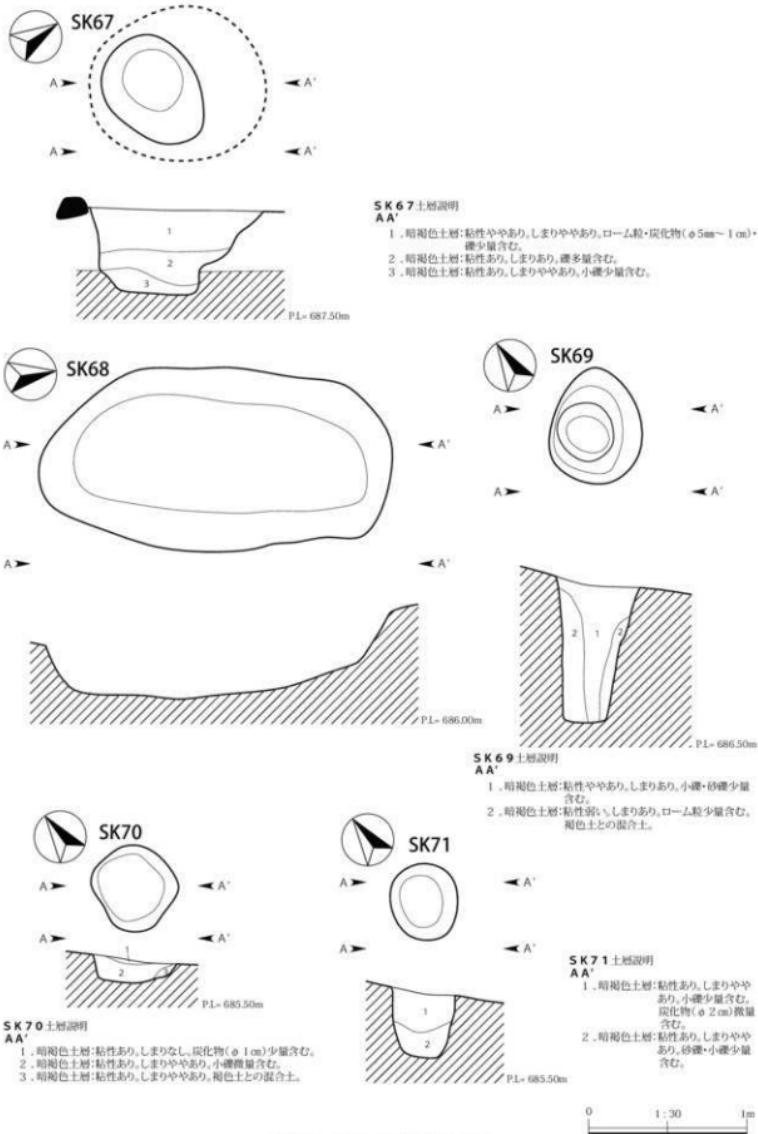
位置 2-54 区 E・F-13 グリッド（2面／調査区北部中央）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸 73cm、短軸 58cm、確認面からの深さ 93cm を測る。**主軸方位** N-27°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK70（第40図）

位置 2-54 区 F-13 グリッド（2面／調査区北部中央より西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸 53cm、短軸 49cm、確認面からの深さ 19cm を測る。**主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 皿状を呈する。**遺物** 繩文土器がわずかに出土したが、図示するには至らなかった。**備考** 出土遺物から縄文時代中期に帰属すると考えられる。

SK71（第40図）

位置 2-54 区 F-13 グリッド（2面／調査区北部中央より西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 49cm、短軸 42cm、確認面からの深さ 46cm を測る。**主軸方位** N-24°-E **壁面** やや外傾して立ち上がる。**底面** 東に向かって下る。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。



第40図 SK67~71実測図(1/30)

SK73（第41図）

位置 2-54区F-13グリッド（2面／調査区北部中央より西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は不整梢円形を呈する。規模は長軸61cm、短軸42cm、確認面からの深さ49cmを測る。**主軸方位** N-44°-E **壁面** 西壁は外傾して、東壁はやや外傾して立ち上がる。**底面** 梱ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK74（第41図）

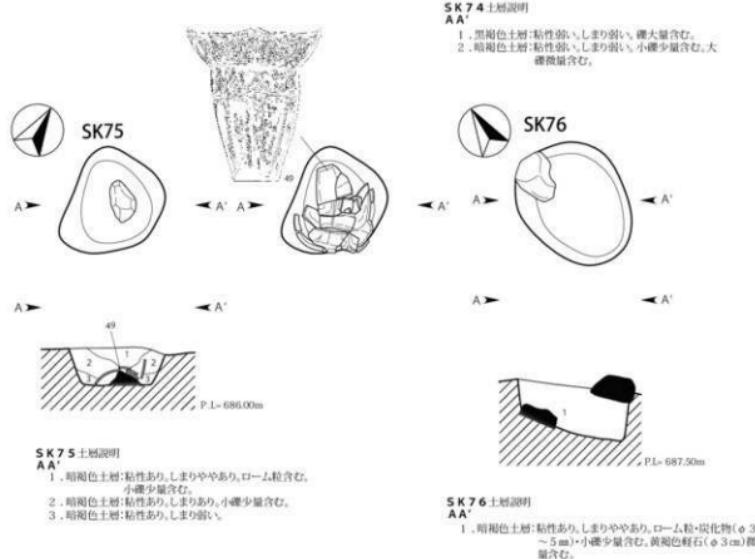
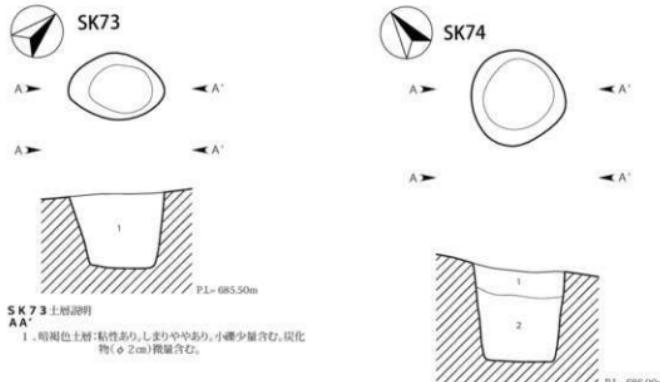
位置 2-54区F-12・13グリッド（2面／調査区北部中央より西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸59cm、確認面からの深さ62cmを測る。**主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 平坦である。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。

SK75（第41・46図／PL8・14）

位置 2-54区F-13グリッド（2面／調査区北部中央より西寄り）。**重複関係** なし。**遺存状態** 土器の大きさを考慮すると、上部は破壊されていると考えられる。**覆土** 暗褐色土を基調とし、人為堆積である。**平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸68cm、短軸58cm、確認面からの深さ24cmを測る。**主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 平坦である。地山の礫が顔を出す。**遺物** 縄文土器1点を図示し得た。**備考** 底面の直上で横倒しになった状態の第46図49が出土した。出土状況から正位で立てられていたが、南東方向に倒れたことがうかがえる。土器内の土を調べてみたが、新たな遺物や異なる土などは検出されなかった。出土遺物から縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式期）に帰属するものと考えられる。

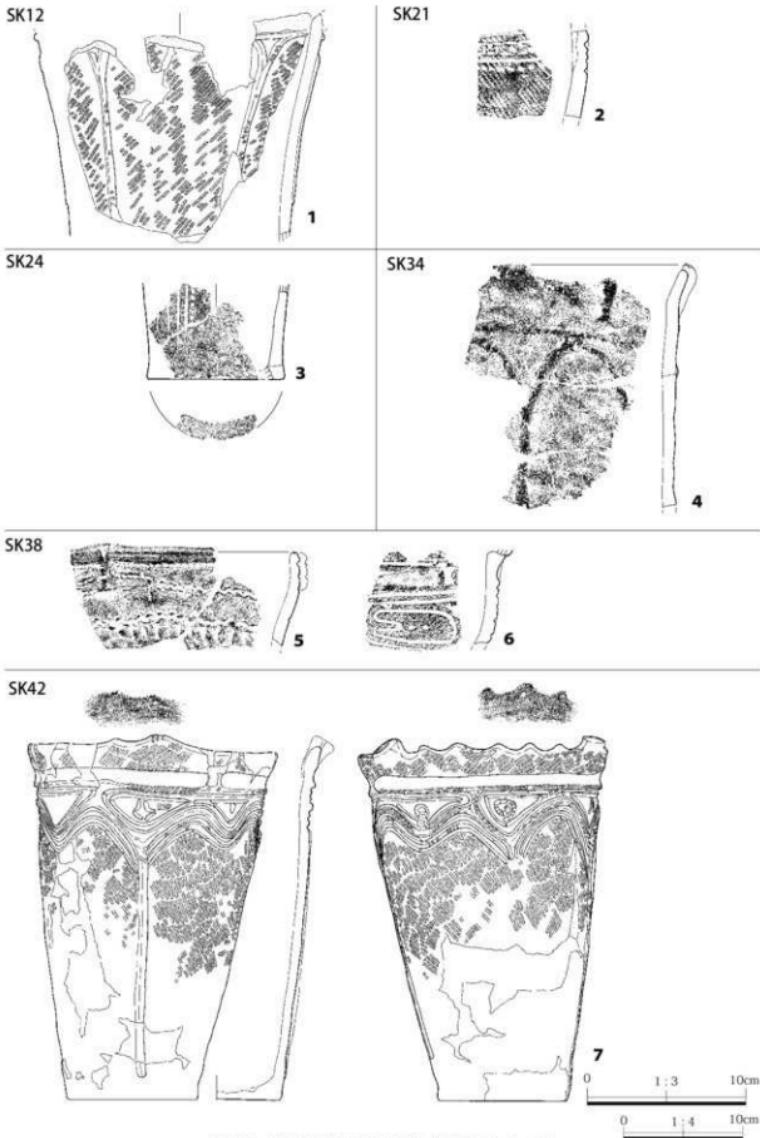
SK76（第41図）

位置 2-54区E-11グリッド（2面／調査区北部中央）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸82cm、短軸66cm、確認面からの深さ38cmを測る。**主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 東に向かって下る。**遺物** なし。**備考** 覆土の状況から縄文時代に帰属するものと考えられる。



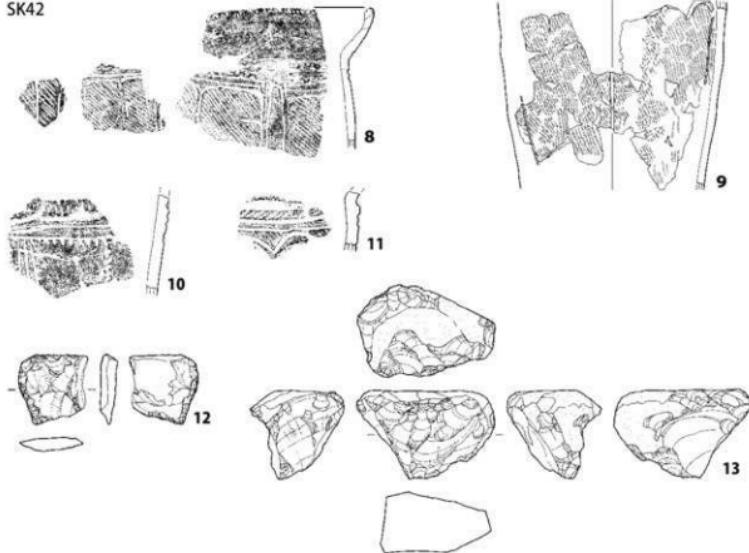
第41図 SK73～76実測図(1/30)





第42図 繩文時代土坑出土遺物実測図①(1/3・1/4)

SK42



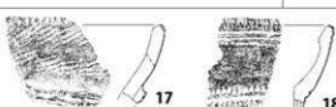
SK43



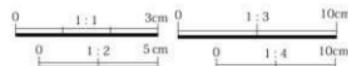
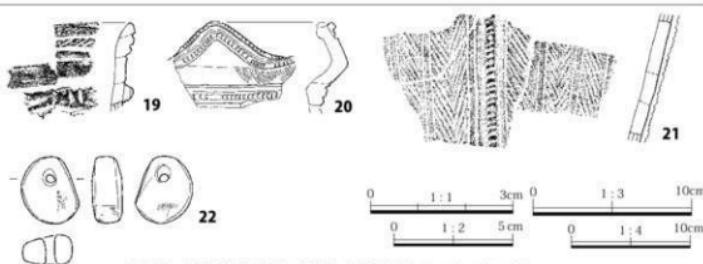
SK50



SK51

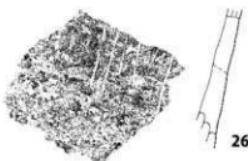
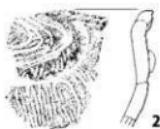
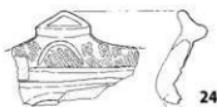


SK55

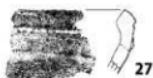


第43図 繩文時代土坑出土遺物実測図②(1/1・1/2・1/3・1/4)

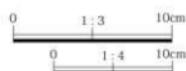
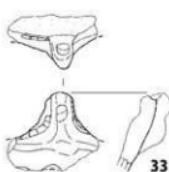
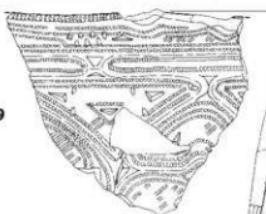
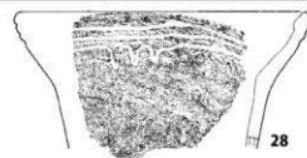
SK56



SK59

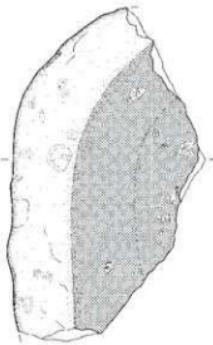
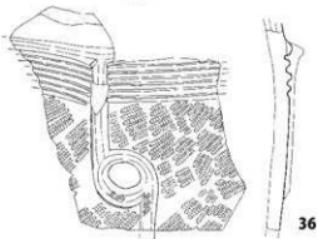
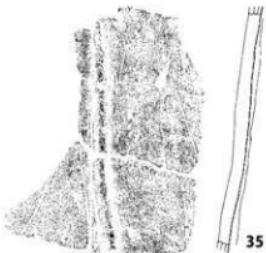


SK61

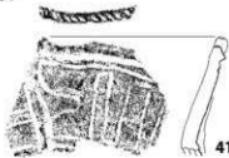


第44図 繩文時代土坑出土遺物実測図③(1/3・1/4)

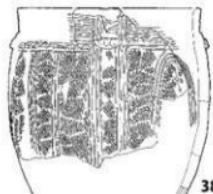
SK61



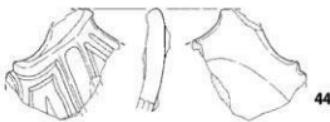
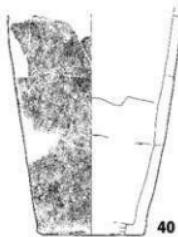
SK64



SK62



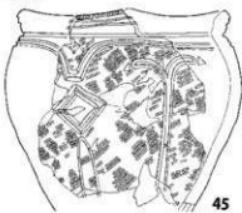
SK63



0 1 : 3 10cm
0 1 : 4 10cm

第45図 繩文時代土坑出土遺物実測図④(1/3・1/4)

SK66



45



46

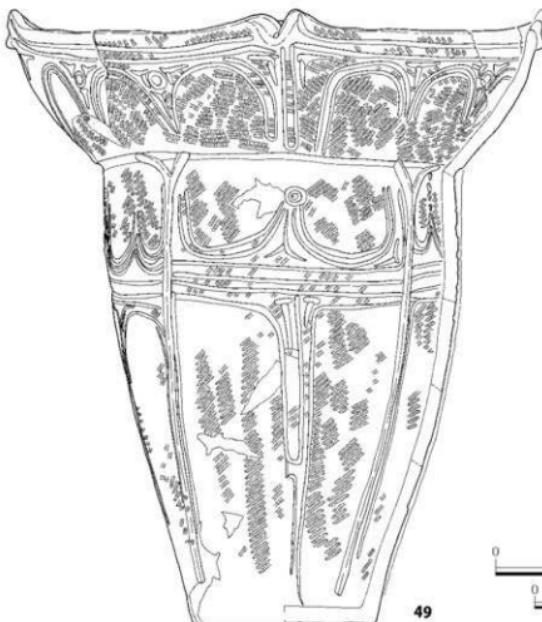


47



48

SK75



49



第46図 繩文時代土坑出土遺物実測図⑤(1/3・1/4)

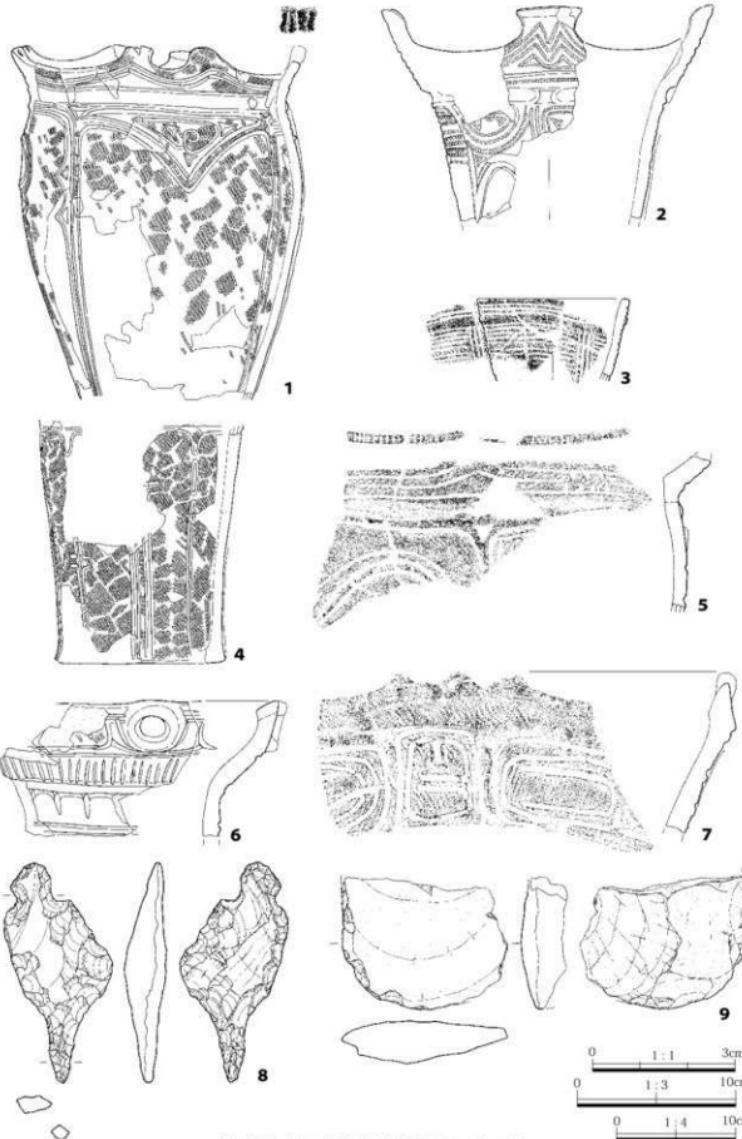
(4) 不明遺構

SX01 (第47・48図／PL 8・14・15)

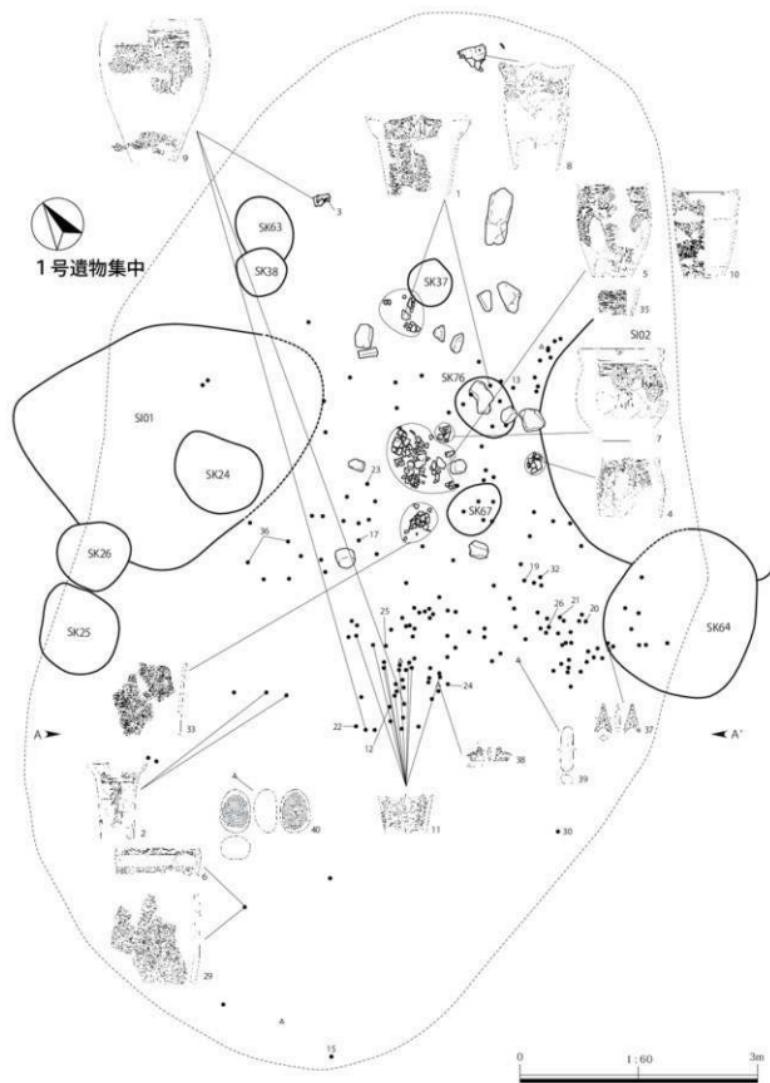
位置 2-54区G・H-11・12グリッド（調査区北壁中央から東寄り）。調査区を南北に下る沢の中で、特に遺物や大甕の集中する箇所をSX01とした。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐色土・黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は幅265cm、確認面からの深さは最深で75cmを測る。 **主軸方位** 不明。 **壁面** 概ね外傾して立ち上がる。 **底面** 凸凹す



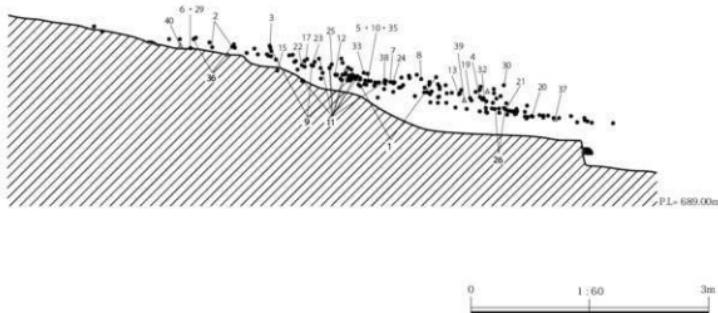
第47図 SX01実測図(1/60)



第48図 SX01出土遺物実測図(1/1・1/3・1/4)



第49図 1号遺物集中遺物出土状況図①(1/60)



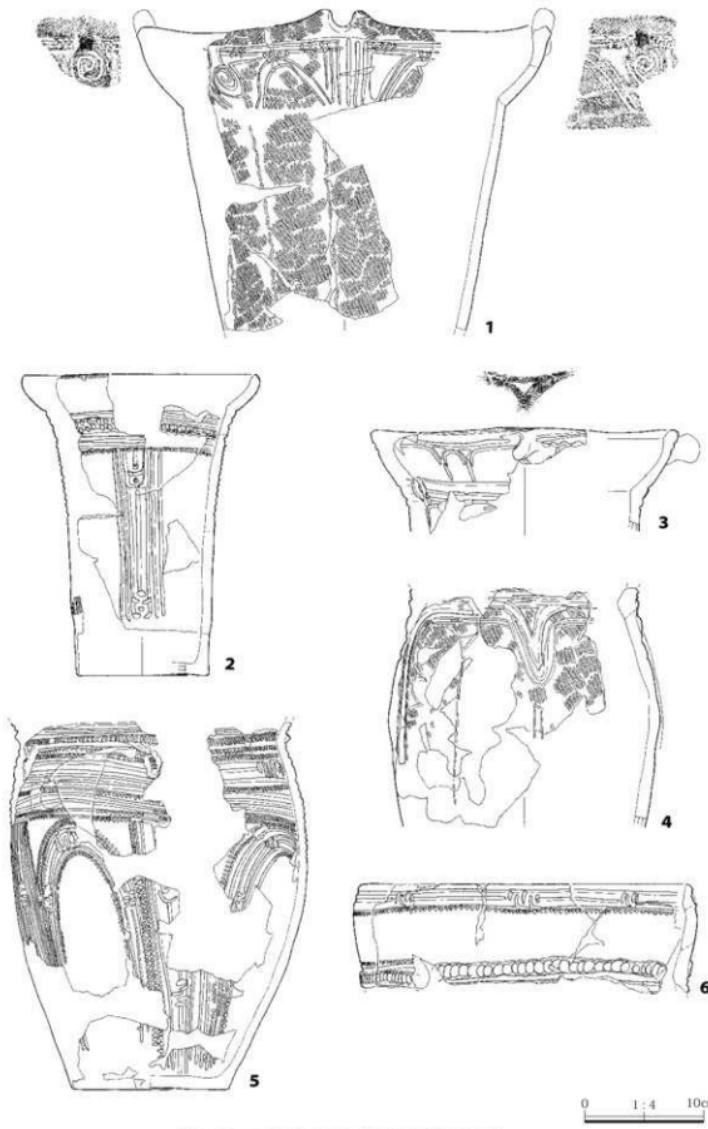
第50図 1号遺物集中遺物出土状況図(1/60)

る。 **遺物** 遺物は検出面で特に出土しているが、覆土中からも出土している。ただし安置されたというよりも、山の礫などと混在した状況であり、上から流れ込んできたような状況である。出土遺物は五領ヶ台II式土器が目立つ。図示するに至らなかった遺物の中には阿玉台I a式土器も少量存在する。縄文土器、石器、黒曜石片や赤いチャートが出土した。縄文土器7点、石匙転用の石鑿、打製石斧各1点を図示し得た。**備考** 出土遺物から縄文時代中期初頭～前葉（五領ヶ台II式～阿玉台I a式期）の頃に、沢が埋没したと思われる。

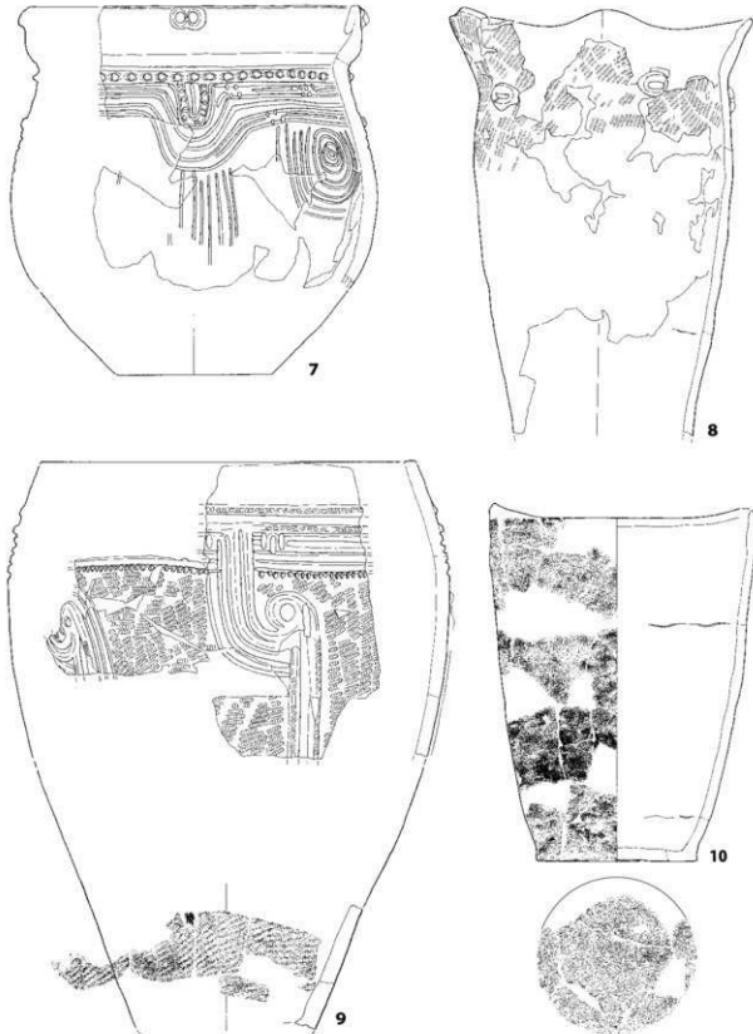
(5) 遺物集中

1号遺物集中 (第49～55図／PL 8・9・15～17)

位置 2—54区D・E—11・12グリッド (2面/調査区北壁中央から西寄り)。 **重複関係** なし。 **規模** 規模は幅5m、長さ13.5mの範囲である。 **遺物検出状況** S101・02面で特に遺物が集中する。この部分は北から南へ下る斜面が、一度緩やかになる場所である。よって上から流れ込んできた遺物が溜まった可能性も考えられよう。縄文土器、石器が山の礫と混在した状況で多数出土している。縄文土器36点、石鑿、石匙、棒状鏃各1点、磨石2点を図示し得た。**備考** 出土遺物から本遺物集中は縄文時代中期初頭～前葉（五領ヶ台II式～阿玉台I a式期）に帰属すると考えられる。

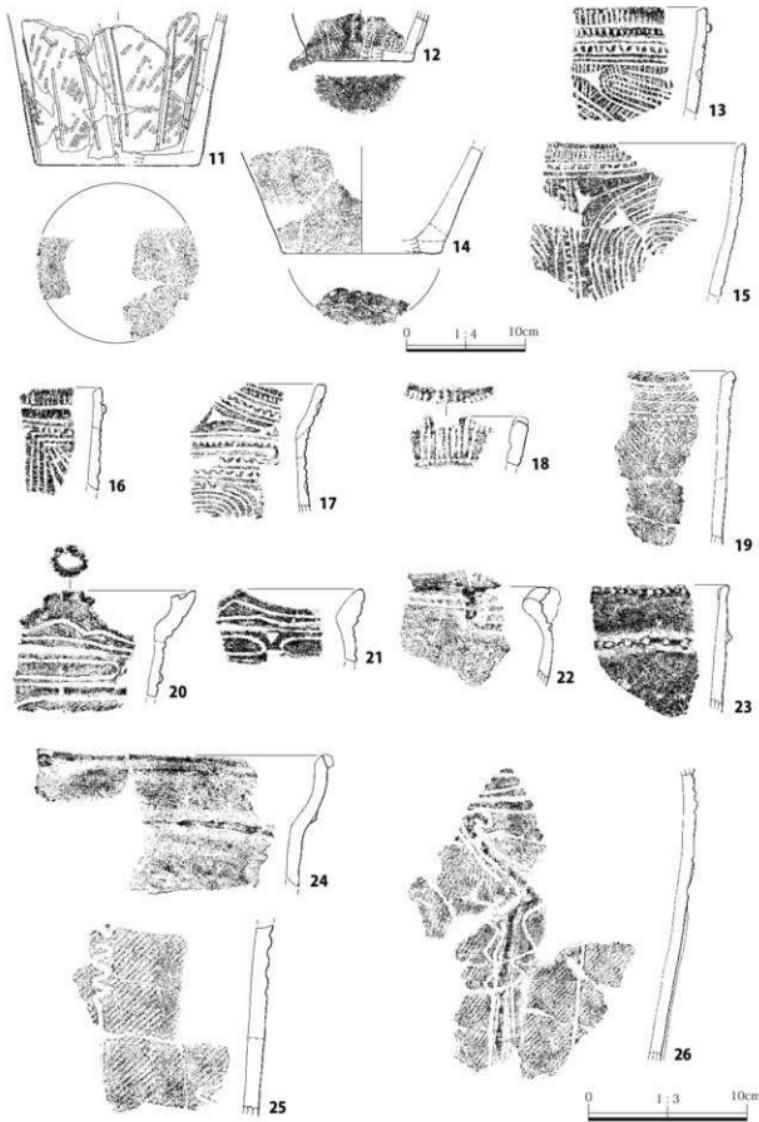


第51図 1号遺物集中出土遺物実測図①(1/4)

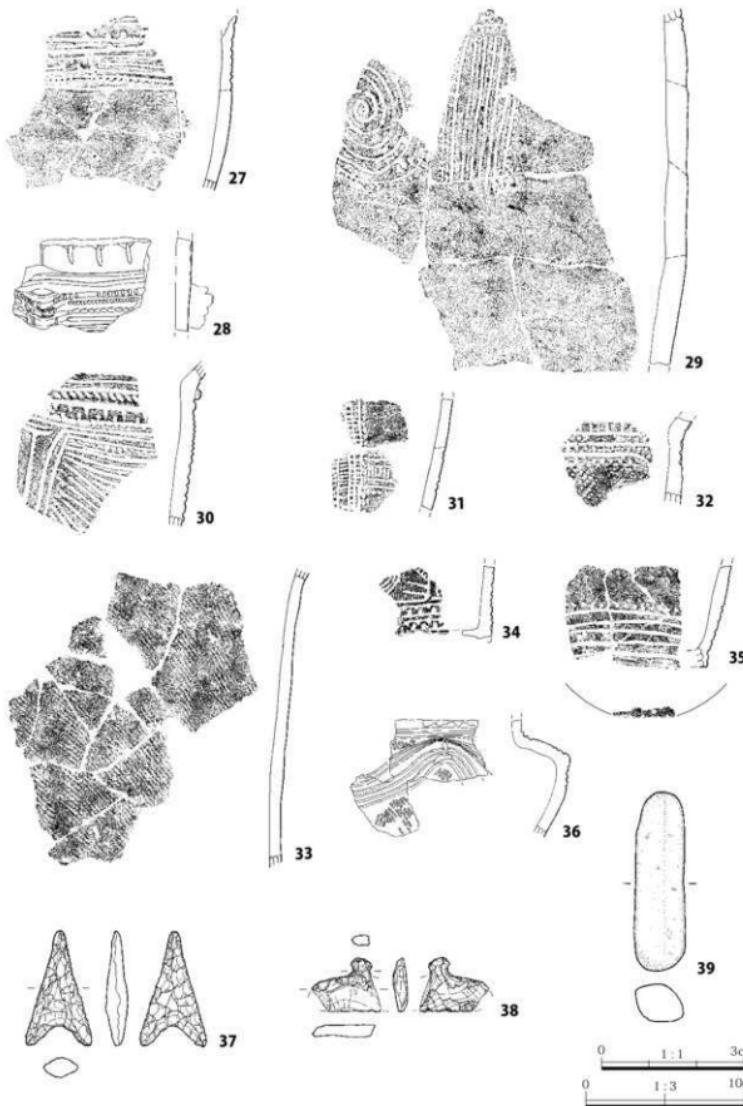


0 1:4 10cm

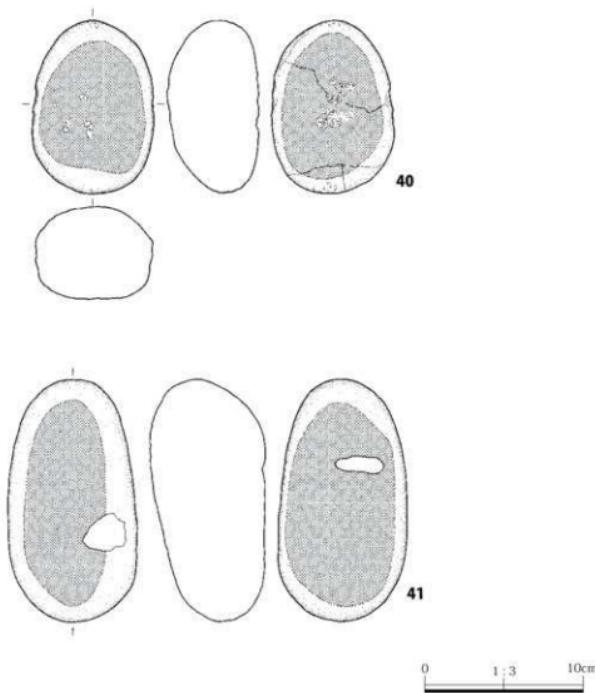
第52図 1号遺物集中出土遺物実測図②(1/4)



第53図 1号遺物集中出土遺物実測図③(1/3・1/4)



第54図 1号遺物集中出土遺物実測図④(1/1・1/3)



第55図 1号遺物集中出土遺物実測図⑤(1/3)

2号遺物集中(第56~59図/P.L.9・17・18)

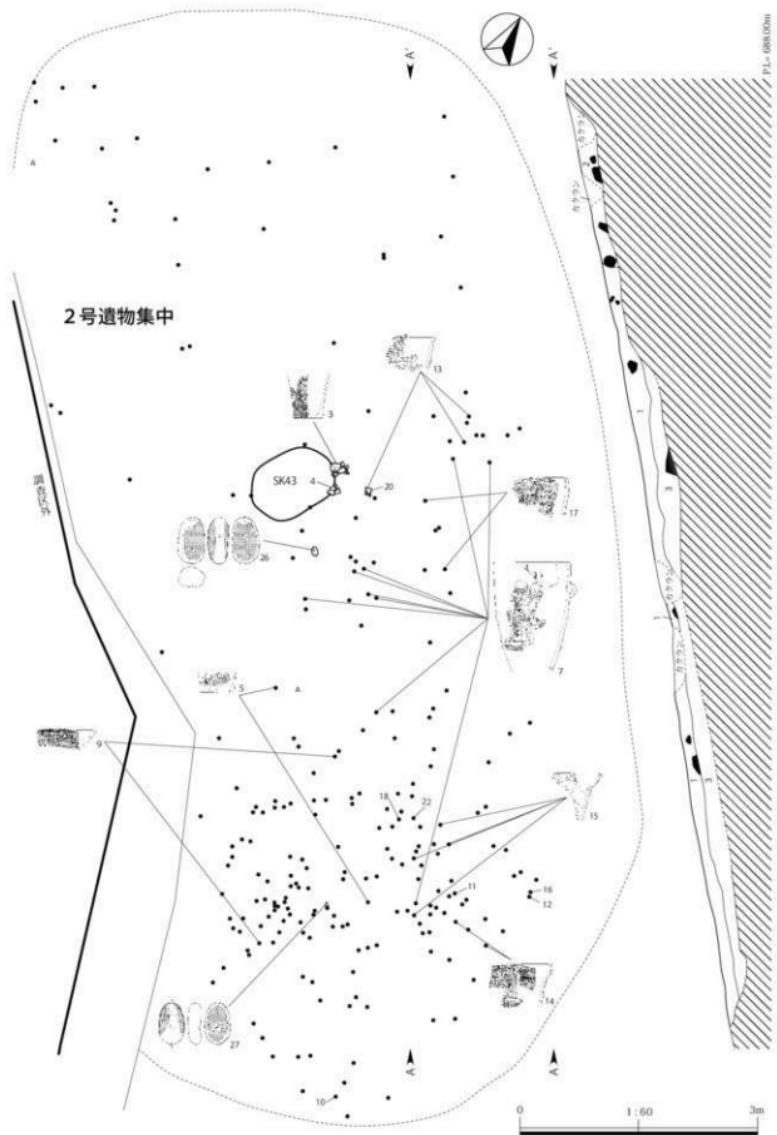
位置 2-54 区D-13・14、E-14 グリッド(2面/調査区北壁中央)。 **重複関係** なし。 **規模** 規模は幅12m、長さ14mの範囲である。 **遺物検出状況** 出土遺物は五領ヶ台II式土器が目立ち、中には第57図7のように勝坂式と言えるようなものもある。縄文土器、石器が山の礫と混在した状況で1~3層中から多数出土している。山の礫は1号遺物集中よりも多い。縄文土器24点、石器1点、凹石2点を図示し得た。

備考 このことから本遺物集中は縄文時代中期初頭~前葉(五領ヶ台II式~阿玉台Ia式、勝坂式期)に帰属すると考えられる。

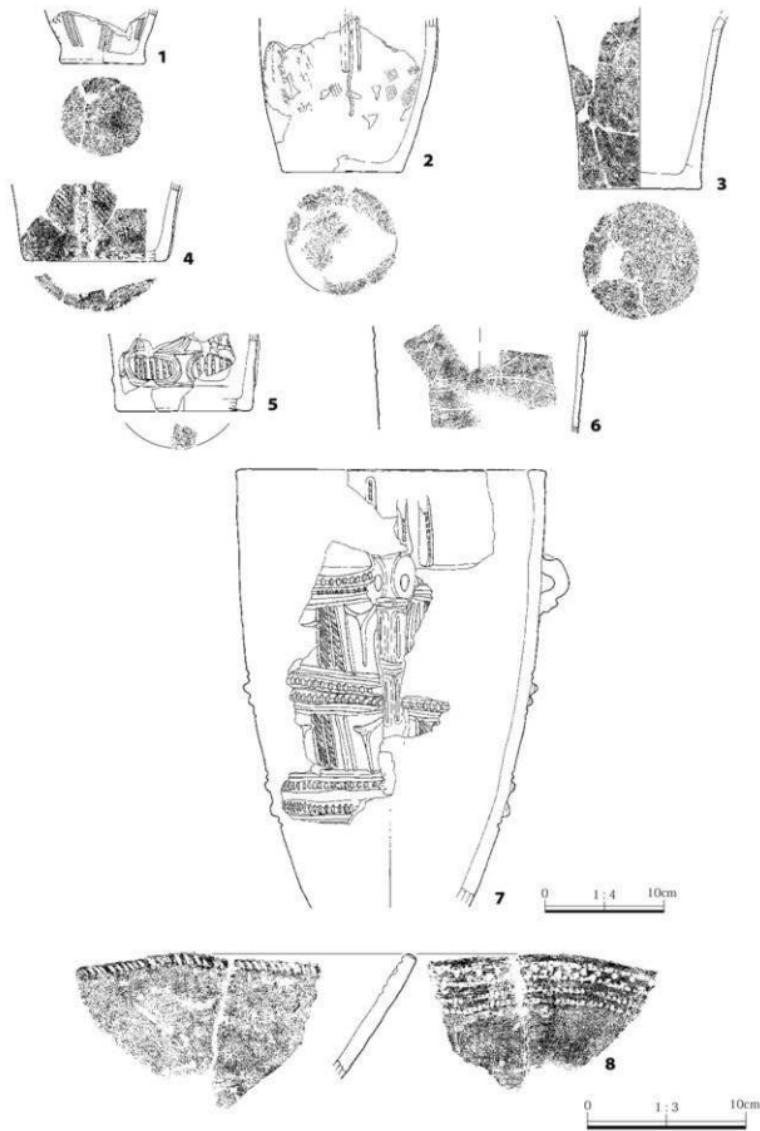
2号遺物集中土器説明

AA'

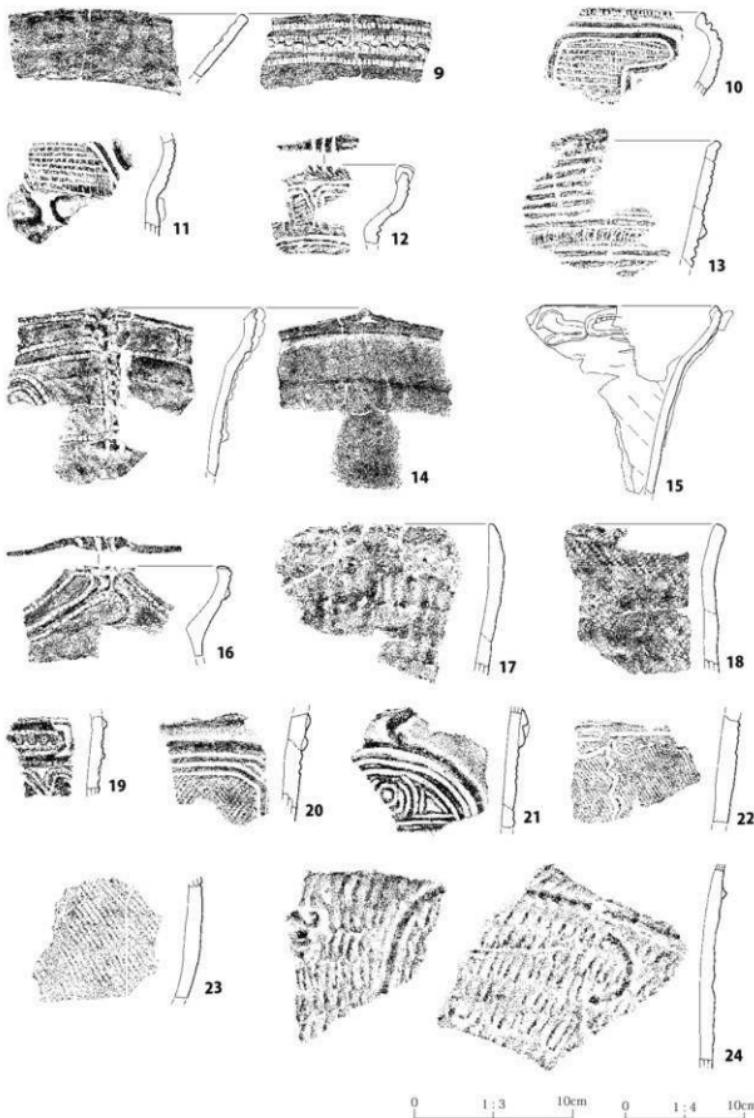
1. 黒褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、小礫多量含む、ローム少量含む、炭化物($\phi 10\text{mm}$)微量含む。
2. 茶色土層:粘性弱い、しまり弱い、小礫少量含む。
3. 暗褐色土層:粘性弱い、しまりややあり、小礫多量含む、ローム少量含む。



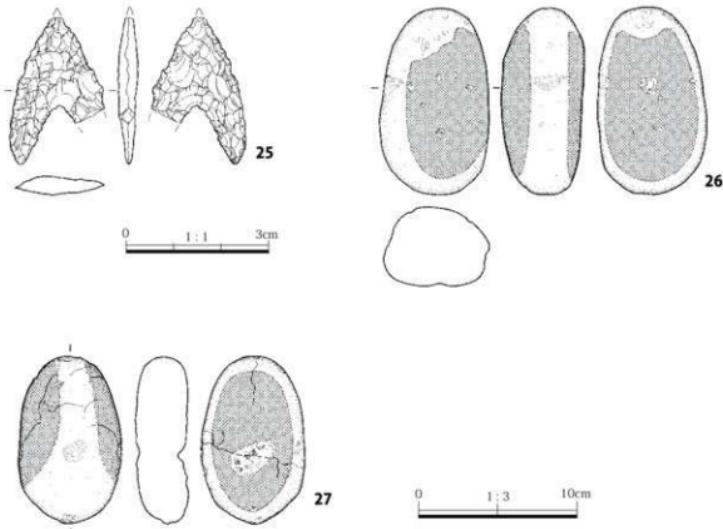
第56図 2号遺物集中遺物出土状況図 (1/60)



第57図 2号遺物集中出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第58図 2号遺物集中出土遺物実測図②(1/3・1/4)



第59図 2号遺物集中出土遺物実測図③(1/1・1/3)

第3節 平安時代の遺構と遺物

(1) 陥し穴

SK52 (第60図／PL 9)

位置 2-54 区H-17 グリッド (調査区中央部からやや西寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

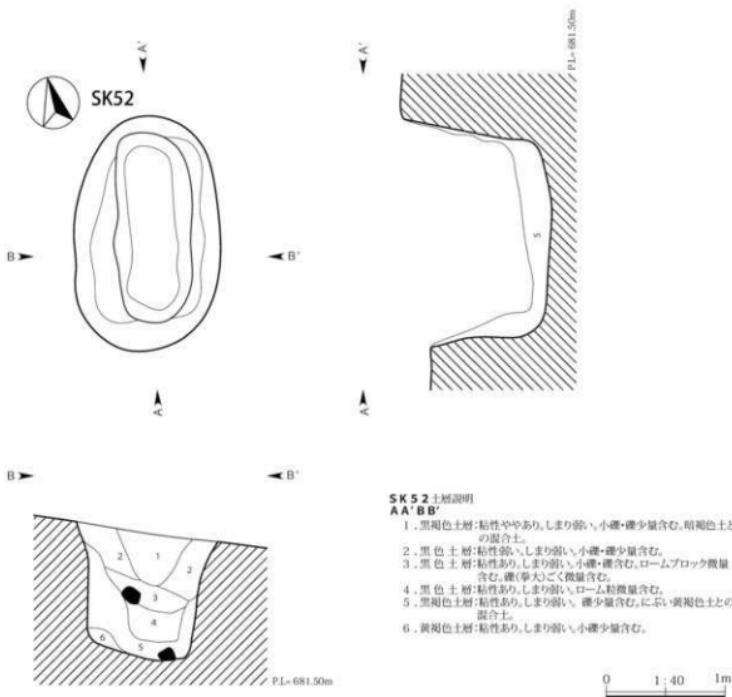
覆土 黒色土を基調とするが、1・5・6層は黒褐色土である。覆土はすべてしまりが弱い。また、堆積状況を見ると5・6層→3・4層→1・2層の順に、3段階の大きな堆積の状況を見てとれる。 **平面形**と**規模**

平面形は上位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸198cm、短軸124cm、確認面からの深さ117cmを測る。 **主軸方位** N-17°-E **壁面** 西・南壁は薬研状に立ち上がり、東・北壁は垂直気味に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが西壁のあたりがやや高い。 **遺物** 繩文土器片がわずかに出土した。繩文土器1点を図示したが遺構に伴う遺物ではないと判断し、遺構外遺物として掲載した (第69図33)。

備考 本遺構の覆土から、縄文時代中期初頭 (五領ヶ台II式期) の資料が出ているものの、平・断面形状から当地域における平安時代の陥し穴であると考えられよう。

SK53 (第61図)

位置 2-64 区O-2 グリッド (調査区南部西壁寄り)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 規模からすると陥し穴と考えられ、その場合は上部が削平されている。 **覆土** 黒色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面**



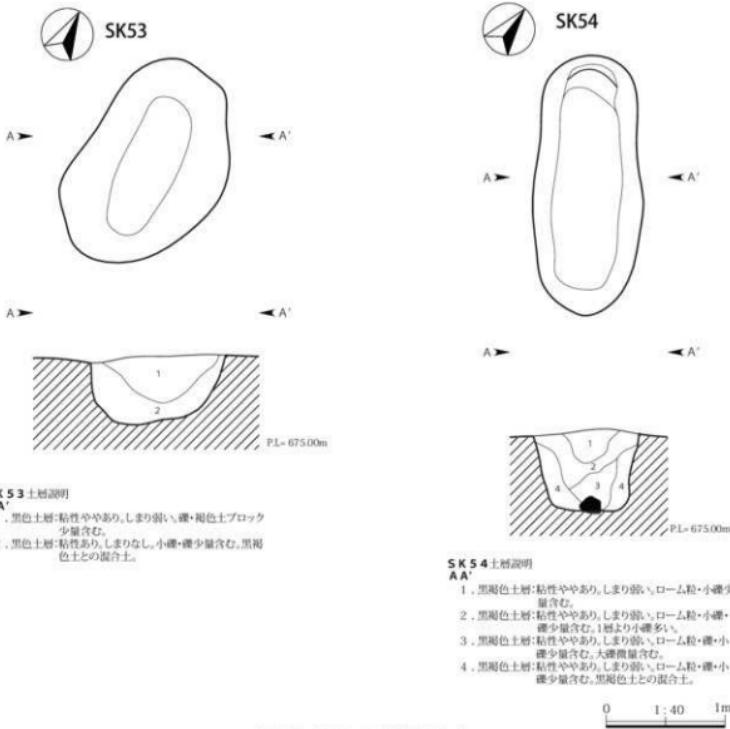
第60図 SK52実測図(1/40)

形と規模 平面形は不整な圓角長方形を呈する。規模は長軸 183cm、短軸 120cm、確認面からの深さ 59cm を測る。
主軸方位 N-10°-E
壁面 やや外傾して立ち上がる。
底面 西に向かって下る。
遺物 なし。

備考 平・断面形状から当地域における平安時代の陥し穴であると考えられよう。

SK54 (第 61 図)

位置 2-64 区 P-2 グリッド (調査区南部中央)。
重複関係 なし。
遺存状態 規模からすると陥し穴と考えられ、その場合は上部が削平されている。
覆土 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。
平面形と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 218cm、短軸 94cm、確認面からの深さ 72cm を測る。
主軸方位 N-35°-W
壁面 外傾して立ち上がる。
底面 平坦である。
遺物 なし。
備考 平・断面形状から当地域における平安時代の陥し穴であると考えられよう。



第61図 SK53・54実測図(1/40)

第4節 その他の遺構と遺物

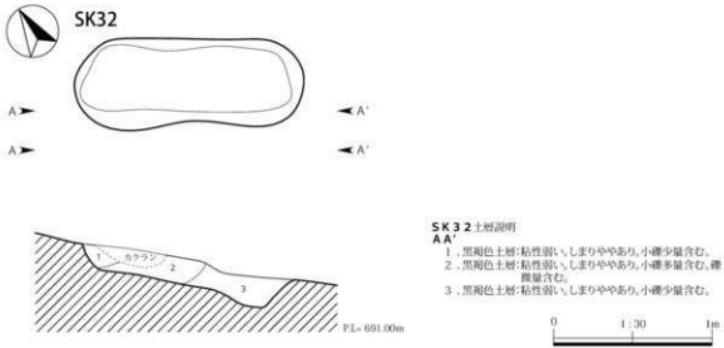
(1) 土坑

SK32 (第62図)

位置 2—54 区D—7 グリッド (調査区北壁中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 145cm、短軸 58cm、確認面からの深さ 41cm を測る。 **主軸方位** N—58°—W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南に向かって下る。凸凹する。 **遺物** なし。 **備考** 覆土のしまりがややあり、一概に近現代帰属とも言い難く時期不明である。

SK36 (第63図／PL 9)

位置 2—54 区E—15 グリッド (調査区中央西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 一度掘りだされたのち埋め戻されているため、大礫が含まれている。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 247cm、短軸 140cm、確認面からの深さ 132cm を測る。 **主軸方位** N—30°—W **壁面** 外傾し



第62図 SK32実測図(1/30)

て立ち上がる。底面 概ね平坦である。遺物 近現代の陶器などが出土したが、図示しなかった。備考 出土遺物の一銭銅貨の鋳造年から、大正時代末以降の墓坑と考えられる。

SK44 (第64図)

位置 2-54区G-13グリッド(調査区中央部)。重複関係 なし。遺存状態 良好。覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸154cm、短軸57cm。確認面からの深さ31cmを測る。主軸方位 N-62°-E 壁面 やや外傾して立ち上がる。底面 概ね平坦である。遺物 なし。備考 時期不明である。

SK57・58 (第64図／PL 9)

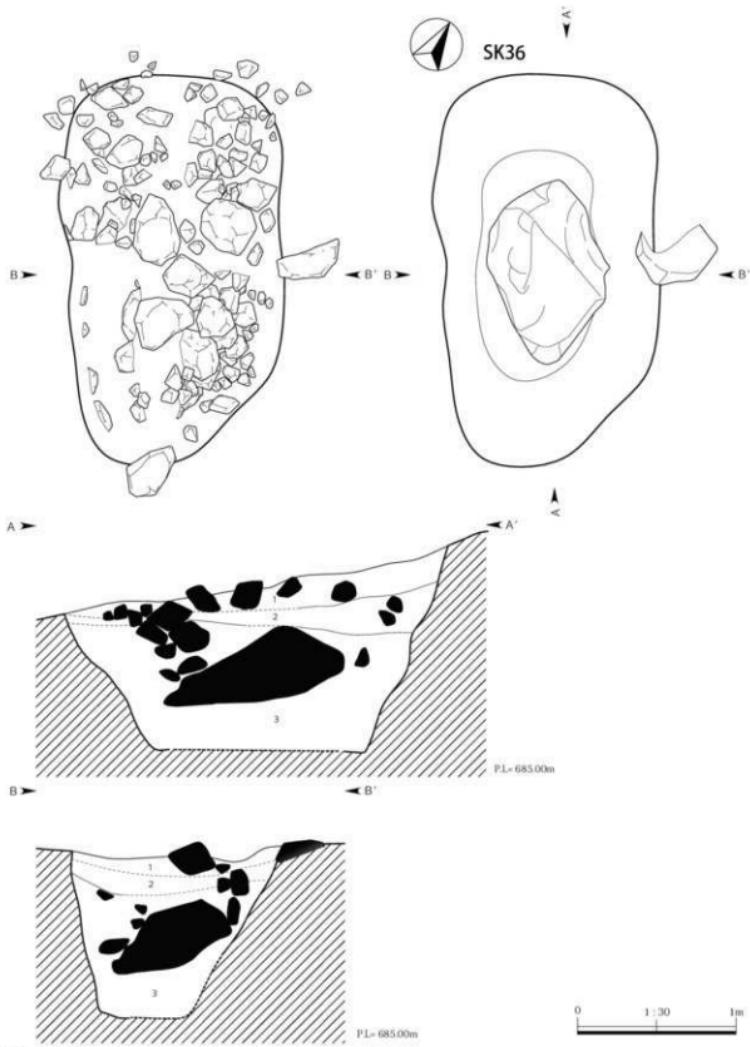
位置 2-64区O-2グリッド(調査区南部西壁寄り)。重複関係 SK57はSK58より新しい。遺存状態 SK57は西側が調査区外となり、SK58の西側はSK57に破壊される。それ以外は良好。覆土 SK57は黒色土、SK58は黒褐色土を基調とする。両遺構とも自然堆積を示す。平面形と規模 平面形はSK57が梢円形を呈すると思われる。SK58は卵円形を呈すると思われる。規模はSK57が長軸118cm、短軸76cm以上。確認面からの深さ62cmを測る。SK58が長軸220cm以上、短軸244cm。確認面からの深さ65cmを測る。主軸方位 SK57はN-40°-W、SK58はN-63°-E。壁面 SK57は外傾して立ち上がる。SK58は東・北壁が外傾して立ち上がり、南壁は階段状に立ち上がる。底面 SK57・58とも概ね平坦である。遺物 なし。備考 覆土の状況から、近世ないし近代に帰属すると考えられる。

SK60 (第65・66図／PL 9)

位置 2-54区H-18・19グリッド(調査区中央部西側)。重複関係 なし。遺存状態 良好。覆土 黒色土を基調とし、自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は卵円長方形を呈する。規模は長軸188cm、短軸106cm。確認面からの深さ56cmを測る。主軸方位 N-30°-W 壁面 やや外傾して立ち上がる。底面 西に向かって下る。遺物 磁器1点を図示した。備考 平・断面形状および出土遺物から近世に帰属する墓と考えられる。

(2) ピット(第16図)

ピットは調査区北部で主に見られた。根の痕跡である可能性も否定できない。規模などは第8表に示した。

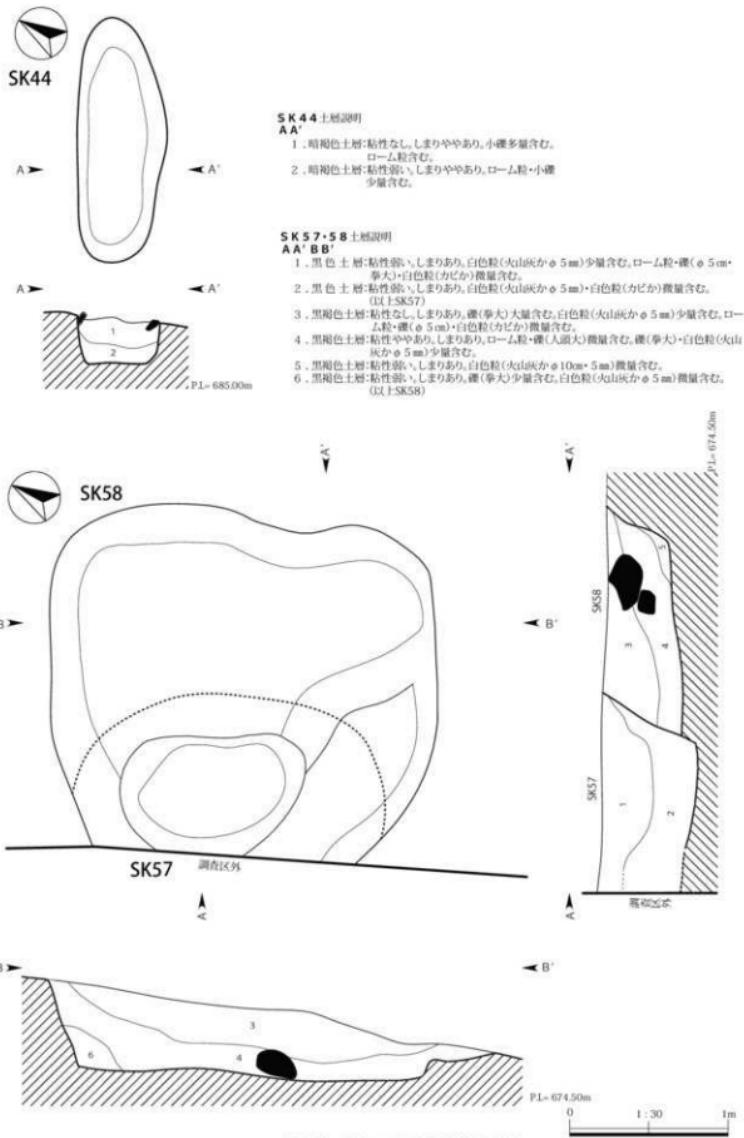


SK36 土層説明

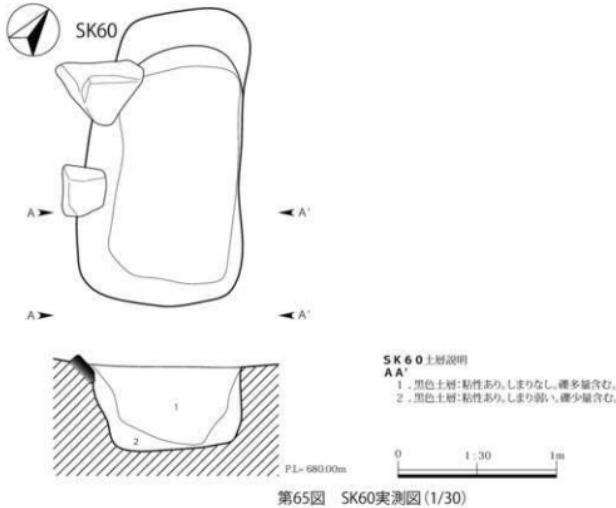
A A' B B'

1. 黒褐色土層：粘性なし。しまり弱い。大礫多量含む。
2. 黒褐色土層：粘性なし。しまりなし。大礫多量含む。
3. 黒褐色土層：粘性やあり。しまりなし。礫・小礫・大礫少量含む。

第63図 SK36実測図 (1/30)



第64図 SK44・57・58実測図(1/30)



第65図 SK60実測図(1/30)



第66図 その他の時代土坑出土遺物実測図(1/30)

第8表 上原II遺跡ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P01	2-54区B-8	円形	49	48	18	B	
P02	2-54区B-8・9	円形	40	35	9	B	
P03	2-54区B-9	円形	32	30	11	B	
P04	2-54区B-9	円形	28	23	9	B	
P05	2-54区B-9	円形	32	23	13	B	
遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P06	2-54区B-9	円形	38	31	17	B	
P07	2-54区B-9	楕円形	31	24	22	B	
P08	2-54区B-9	円形	53	46	20	B	
P09	2-54区B-9	楕円形	42	29	27	B	

※A : 黒色土 B : 黒褐色土 C : 暗褐色土 D : 褐色土 E : に赤い黄褐色土

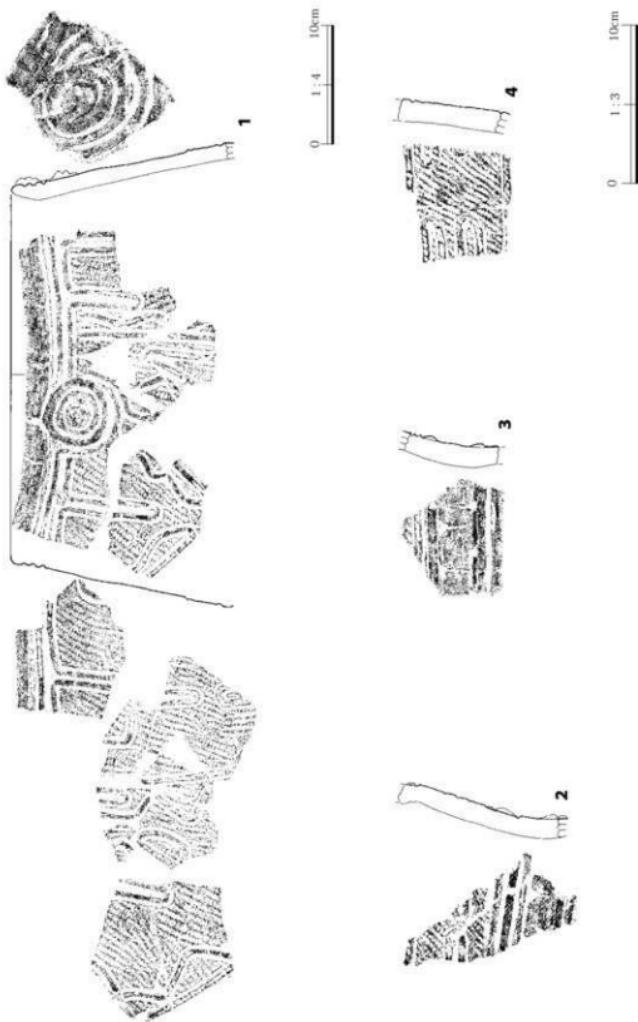
第5節 遺構外出土遺物 (第67~70図／PL 18~20)

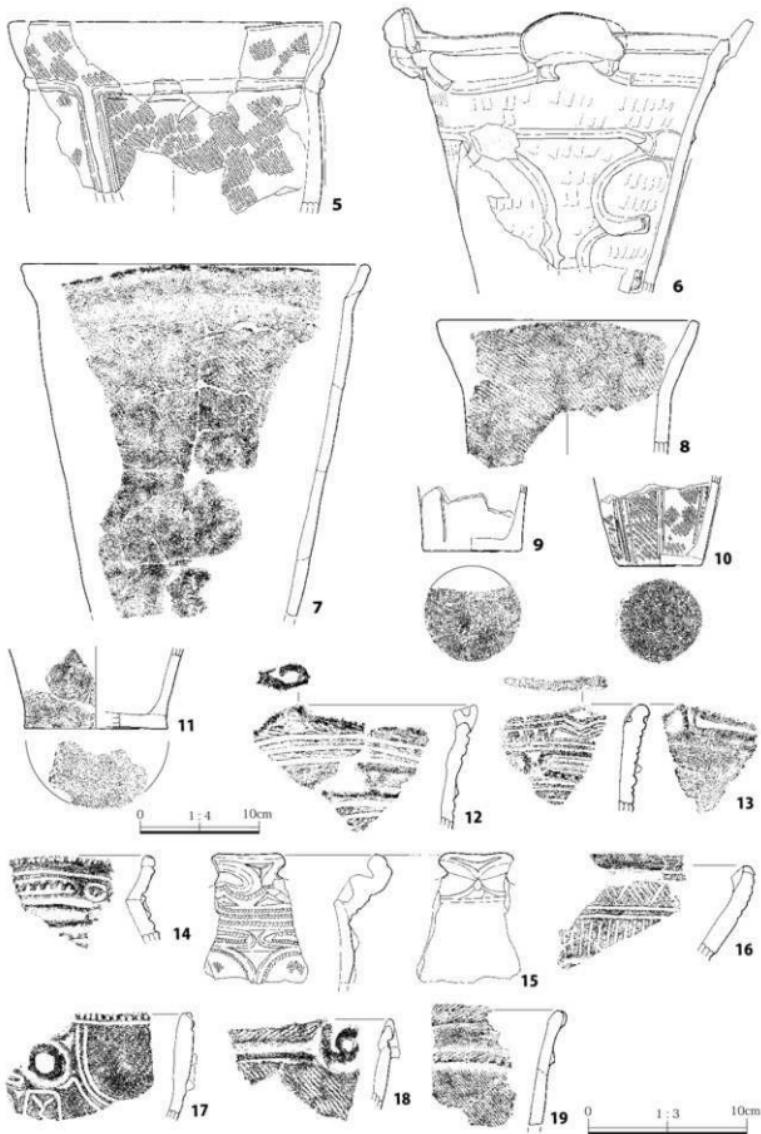
遺構外の遺物もまた五箇ヶ台II式土器が最も多く、次いで阿玉台I式が出土している。特に調査区中央(SK76あたりの東西ライン)辺りに遺物は多い。

それよりも南側では遺物をほとんど確認することは出来なかった。このことは斜面の上である調査区北部から調査区南部の方向に山崩れのようなものが起こり、やや平坦になる調査区中央部に遺物を包含する土砂が溜まつたものと考えられ、山の礫と遺物が混在する出土状況であった。

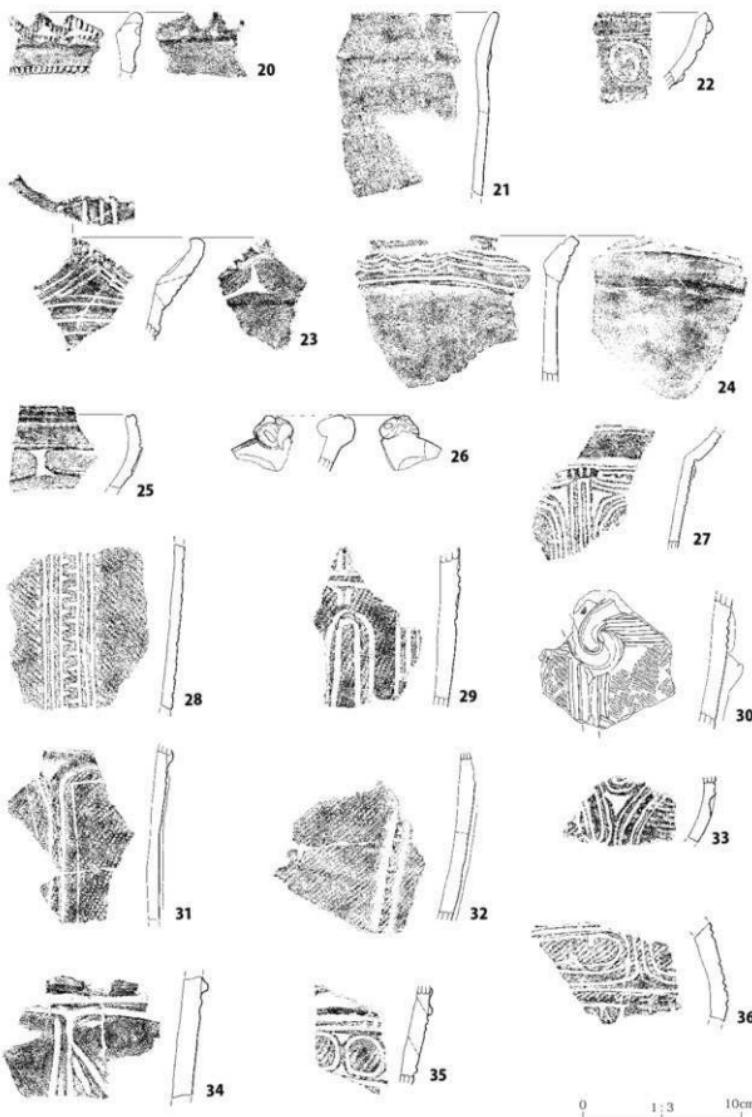
第67図は、上原IV遺跡IV出土遺物と接合した資料である。上原IV遺跡IVの遺物は本遺跡から流れ下ったものと思われることから本遺跡所属と考えられるので、ここに掲載した。

第67圖 遺構外出土遺物實測圖①(1/3•1/4)

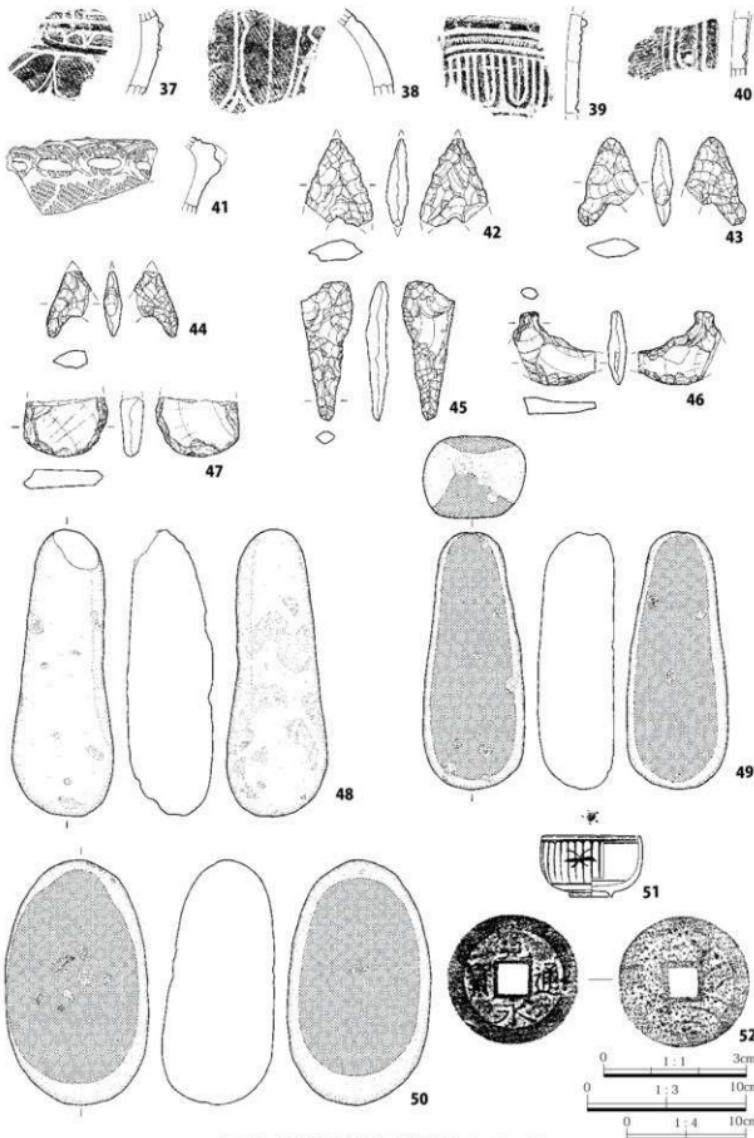




第68図 遺構外出土遺物実測図②(1/3・1/4)



第69図 遺構外出土遺物実測図③(1/3)



第70図 遺構外出土遺物実測図④(1/1・1/3・1/4)

第5章 まとめ

本遺跡の出土遺物を見てみると、縄文時代のものは中期初頭～前葉にかけてのものがほとんどで、他の時期のもの（堀之内式）はごくわずかであった。また、土器の多さに比べて石器が少ないという特徴がある。土器の年代から本遺跡は縄文時代中期初頭（五領ヶ台II式）～前葉（阿玉台I a式）を中心とする集落であるといえる。五領ヶ台II式土器は群馬県内で豊富にあるとは言い難い資料で、本調査により資料数が増加し、今後の研究の一助となろう。

さて、調査によって縄文時代の竪穴状遺構と分類した遺構について、調査時は炉が無いこと、ピットのプランや並びが不明瞭であることなどから、即座に住居であると呼ぶのは控えていた。SI01は炉や、硬化面などが認められなかった。SI02は焼土範囲を確認したが炭化物を含むものの、炉であるとは言い難い状況であった。また硬化面が見られないなどはSI01と同様な状況である。

近在する立馬II遺跡（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006）や榆木II遺跡（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009）では該期の竪穴住居跡が見つかっている。形状がやや歪んでいたり、ピットがきれいに並ばないものなども見られ、本遺跡の状況と似るものもあるが、内部に炉を持つものも立馬II遺跡の事例に見られる。少し離れた長野県上田市下久根遺跡（旧丸子町）でも炉のある住居や、炉が無くピットも不規則に並ぶような住居が出ている。以上のことを踏まえれば、本遺跡の竪穴状遺構も竪穴住居跡である可能性があり、付近にある1～5号焼土遺構が屋外炉として、関連を持つのであろうか。

さてその後の、土地利用状況を見ると、平安時代の陥し穴がわずかに検出されている。押手沢を挟んで西隣の上原III遺跡では多くの陥し穴が見つかっている状況である。本遺跡の陥し穴が上原III遺跡のものと、どう関連するのか、もしくは関連しないのかは気になるところである。また、上原III遺跡と至近距離であるのに、平安時代の住居などは見つかっておらず、上原III遺跡の平安時代集落が営まれた頃、本遺跡は居住域の外であったことが窺える。

平安時代以降は、近世墓の可能性があるもの（SK60）や、近代墓（SK36）が見られるなど、部分的には墓地として利用されていることが窺える。池田秀夫氏によれば長野原町は両墓制が見られ、遺骸を埋葬した墓と、中に遺骸の無い墓があるという（池田 1987）。規模からすればSK36は遺骸を埋葬した墓であろうか。

第9表 上原II遺跡竪穴状遺構諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m × m)				柱配置	炉	周溝	付帯施設	遺物			時期	
		長軸	短軸	壁高	面積					位置	構築方法	土器	石器	
SI01	N-88°-W	(3.63)	2.81	0.15	4.62	—	—	—	—	○	—	○	—	縄文中期初頭
SI02	N-50°-E	(3.57)	3.93	0.21	12.08	—	—	—	—	燒土	○	○	○	縄文中期初頭

参考文献

- 池田秀夫 1987 「人の一生」『長野原町の民俗』
- 丸子町教育委員会 1990 『下久根遺跡 二反田遺跡』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2006 『立馬II遺跡』ハッ場ダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・国土交通省 2009 『榆木II遺跡（2）』ハッ場ダム建設に工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集
- 山口進弘 2009 「群馬県における中期初頭の様相－西毛地域を中心にして－」『第21回 縄文セミナー 縄文中期前半の再検討』縄文セミナーの会

上題 10 種遺跡出土標本物種考

十一
卷之三

HnNo.	遺物名	基盤	法面/基盤/底付(m)	特徴(形態・方法等)		地質	断土・柱等	色調(外板/内板)	層序
				外側面	内側面				
24-14	10 壁文/基・ 漆跡	(7.9) /~/-~	表チベット語の口絆は、9番は2種の内部が重複語文、内部文による表示が文書を示す。 内側面と表記が異なる。外側面はチベット語の口絆である。外はチベット語の口絆である。	良好	砂粒	織り目質 (1.3mm部~体部)	S02 壁上	織り目質 (1.3mm部~体部)	S02 壁上
24-15	10 壁文/基・ 漆跡	(5.5) /~/-~	外側面の内部が重複語文で、内側面は「4種」の内部が重複語文で、ゴムの内部が重複語文である。 又は表記が異なる。外側面はチベット語の口絆である。内側面はチベット語の口絆である。	良好	片岩風面・角閃石	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上
24-16	10 壁文/基・ 漆跡	(4.0) /~/-~	外側面に漆跡、内側面に漆跡。頂部に「3種」の漆跡がある。その後に「4種」の漆跡がある。外側面はチベット語の口絆である。内側面ともに漆跡ナシ。	良好	角閃石	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上
24-17	10 壁文/基・ 漆跡	(5.7) /~/-~	内側面から外に向く口絆面。無之。内側面ともに漆跡ナシ。	良好	片岩風面・角閃石	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上
24-18	10 壁文/基・ 漆跡	(6.1) /~/-~	外側面に漆跡。無之。内側面ともに漆跡ナシ。	良好	片岩風面・角閃石	織り目質 (1.3mm部)	S02P2	織り目質 (1.3mm部)	S02P2
24-19	10 壁文/基・ 漆跡	(6.0) /~/-~	又は表記は4から8、下部には「8」。外側面は「2種」の漆跡で、内側面は「2種」の漆跡である。外側面はチベット語の口絆である。内側面は「2種」の漆跡である。外はチベット語の口絆である。	良好	金田多摩 (約 3 ~ 6mm)	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上	織り目質 (1.3mm部)	S02 壁上
24-20	10 壁文/基・ 漆跡	(8.2) /~/-~	又は表記は4から8、下部には「8」。外側面は「2種」の漆跡で、内側面は「2種」の漆跡である。外側面はチベット語の口絆である。内側面は「2種」の漆跡である。外はチベット語の口絆である。	良好	角閃石	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
24-21	~ 壁文/漆・ 漆跡	(7.0) /~/-~	外は織り目質で、内側面は漆跡ナシ。	良好	金田多摩 (約 3 ~ 6mm)	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
24-22	~ 壁文/漆・ 漆跡	(6.3) /~/-~	織り目質で、内側面は漆跡が確認される。外側面は漆跡である。内側面ともに漆跡ナシ。	良好	角閃石	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
24-23	11 壁文/漆・ 漆跡	(5.0) /~/-~	外は5から7種の漆跡である。三角形で引かれた文字が2種ある。織り目質で、内側面は「2種」の漆跡である。外側面は「2種」の漆跡である。内側面は「2種」の漆跡である。	良好	金田多摩・ 石英	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
24-24	11 壁文/漆・ 漆跡	(5.5) /~/-~	外は織り目質で、内側面は「2種」の漆跡である。外側面は「2種」の漆跡である。内側面は「2種」の漆跡である。	良好	金田多摩・ 長石	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
24-25	~ 壁文/漆・ 漆跡	(10.2) /~/-~	帝都以西文、織り目質で、内側面は漆跡ナシ。	良好	金田多摩・ 片岩	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
24-26	~ 壁文/漆・ 漆跡	(5.6) /~/-~	外は3種の漆跡である。内側面は漆跡が確認され、又は引かれた跡である。その上に大きな縦書きで「身元記入」の漆跡がある。外側面は漆跡である。	良好	金田多摩 ~云々小字	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
25-27	11 壁文/漆・ 漆跡	(4.2) /~/-~	体がくびれており直線的、2つの横の漆跡が確認される。中心部には「身元記入」の漆跡が確認される。 外はチベット語の口絆である。	良好	金田多摩 ~云々小字	織り目質 (体部)	S02 壁上	織り目質 (体部)	S02 壁上
25-28	11 壁文/漆・ 漆跡	< 20.2 > /~/-~	2種の内部文と重複するので重複を記入。新規の漆跡を記入。新規の漆跡を記入。外側面は漆跡である。	良好	片岩風面・ 長石	織り目質 (1.3mm部~体部)	S02A・S02Z	織り目質 (1.3mm部~体部)	S02 壁上
25-29	11 刹(石)脚・ 石脚	長 5.1 /幅 2.6 /厚 1.0 刹(石)脚 長 1.8 /幅 3.0 /厚 1.6 刹(石)脚 長 1.1 /幅 1.1	刹(石)脚 長 5.1 /幅 2.6 /厚 1.0 刹(石)脚 長 1.8 /幅 3.0 /厚 1.6 刹(石)脚 長 1.1 /幅 1.1	~ ~ ~	織り目質	~ ~ ~	S02 壁上	~ ~ ~	S02 壁上
25-31	11 置石/敷石(長)(13.6) /幅(5.2) /厚(3.5) 砂墨(374) 砂墨(374) 砂墨(374) 砂墨(374)	砂墨(374) 砂墨(374) 砂墨(374) 砂墨(374)	砂墨(374) 砂墨(374) 砂墨(374) 砂墨(374)	~ ~ ~ ~	織り目質(安息香)	~ ~ ~ ~	S02 壁上	~ ~ ~ ~	S02 壁上

焼土遺構出土遺物観察表

HnNo.	遺物名	基盤	法面/基盤/底付(m)	特徴(形態・方法等)		地質	断土・柱等	色調(外板/内板)	層序
				外側面	内側面				
28-1	11 壁文/漆・ 漆跡	(18.7) /~/-~	外側面と内側面とで、漆文を有する。外側面は「2種」の漆跡である。内側面は「2種」の漆跡である。 内側面は「2種」の漆跡である。外側面は「2種」の漆跡である。内側面は「2種」の漆跡である。	良好	石英・金雲母	織り目質	S02 壁上	織り目質	S02 壁上
28-2	11 壁文/漆・ 漆跡	(19.5) /~/-~	外側面と内側面とで、漆文を有する。外側面は「2種」の漆跡である。内側面は「2種」の漆跡である。 内側面は「2種」の漆跡である。外側面は「2種」の漆跡である。内側面は「2種」の漆跡である。	良好	石英・金雲母	織り目質	S02 壁上	織り目質	S02 壁上

第28図と併せて、
「2種」の漆跡を有する漆文を有する焼土遺構である。

第五章 文書									
第五章 文書					第五章 文書				
文書名	文書番号	文書内容	文書形式	文書用紙	文書名	文書番号	文書内容	文書形式	文書用紙
明文・墨・ 墨跡	286.3	11	明文・墨・ 墨跡	(4.1) /—/—	外面は墨で「三郎」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石・片岩	明石/にぶい重 板片資料 (1枚綴)	内面石・片岩	2.9kg上質
明文・墨・ 墨跡	286.4	11	明文・墨・ 墨跡	(3.2) /—/—	外面は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	石英	明石/完全記	内面石	2.9kg上質
明文・墨・ 墨跡	286.5	—	明文・墨・ 墨跡	(4.1) /—/—	鉛筆の墨で「伊藤」と記す。鉛筆の墨で「伊藤」と記す。外面は墨で「伊藤」と記す。内部は墨で「伊藤」と記す。	内面石・片岩	明石/完全記	内面石	3.0kg上質
明文・墨・ 墨跡	286.6	11	明文・墨・ 墨跡	(5.0) /—/—	外面は墨で「伊藤」と記す。内部は墨で「伊藤」と記す。外側は墨で「伊藤」と記す。内部は墨で「伊藤」と記す。	内面石・片岩	明石/完全記	内面石	3.0kg上質
第五章 文書									
文書名	文書番号	文書内容	文書形式	文書用紙	文書名	文書番号	文書内容	文書形式	文書用紙
明文・墨・ 墨跡	42.1	11	明文・墨・ 墨跡	(19.4) /—/—	外面は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石・片岩	多色・材質等 良好	内面石・片岩	墨
明文・墨・ 墨跡	42.2	—	明文・墨・ 墨跡	(5.5) /—/—	外面は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石	明文/25% 磨耗 板片資料 (1枚)	内面石	S41.2
明文・墨・ 墨跡	42.3	—	明文・墨・ 墨跡	(8.0) /—/—	外面は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	金正母	明文/20% 磨耗 板片資料 (1枚綴)	内面石	S42.1
明文・墨・ 墨跡	42.4	11	明文・墨・ 墨跡	(15.1) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	金正母	明文/20% 磨耗 板片資料 (1枚綴)	内面石	S42.4
明文・墨・ 墨跡	42.5	11	明文・墨・ 墨跡	(5.0) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石・片岩	多色・材質等 良好	内面石・片岩	墨
明文・墨・ 墨跡	42.6	11	明文・墨・ 墨跡	(5.0) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石・片岩	多色・材質等 良好	内面石・片岩	墨
第五章 文書									
文書名	文書番号	文書内容	文書形式	文書用紙	文書名	文書番号	文書内容	文書形式	文書用紙
明文・墨・ 墨跡	42.7	12	明文・墨・ 墨跡	30.8 / 20.0 / 10.8	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石・片岩	内面石・片岩	内面石・片岩	2.9kg上質
明文・墨・ 墨跡	43.8	12	明文・墨・ 墨跡	(8.0) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石	内面石・片岩	内面石	3.0kg上質
明文・墨・ 墨跡	43.9	—	明文・墨・ 墨跡	(10.0) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石	内面石	内面石	3.0kg上質
明文・墨・ 墨跡	43.10	12	明文・墨・ 墨跡	(6.4) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石	内面石	内面石	3.0kg上質
明文・墨・ 墨跡	43.11	12	明文・墨・ 墨跡	(6.4) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石	内面石	内面石	3.0kg上質
明文・墨・ 墨跡	43.12	12	明文・墨・ 墨跡	(21.2) /—/—	墨書きで「伊藤」の姓を記す。外側は墨で「伊藤」の姓を記す。内部は墨で「伊藤」の姓を記す。	内面石	内面石	内面石	3.0kg上質

43-13	12	新片石層・ 石質・ 泥質	長19／幅29／厚19 重量 8.4g。	—	墨面石	—	—	5842
43-14	—	岡之原・ 泥質	(3.6) /—/—	日本上部に形成層、口野外層は灰い墨面、屋内底層を墨文する。外野外層ともに墨面ナダ。	良好	片岩・石質	墨面石	5843
43-15	12	岡之原・ 泥質	(4.8) /—/—	内野壁も含む。立ち上がり、1.9m×1.6m、外野に墨面に変化する。5条の墨面記述。	良好	片岩	石質	5844
43-16	12	岡之原・ 泥質	(4.7) /—/—	内野壁も含む。表面に突出部、窓枠に突出部がある。表面の内壁に墨面記述を有する。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5845
43-17	12	岡之原・ 泥質	(4.9) /—/—	内野壁も含む。窓枠に突出部がある。外野壁に墨面記述を有する。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5846
43-18	12	岡之原・ 泥質	(5.2) /—/—	突起物が特徴。表面が墨面。下部墨面に墨文記述。外野壁に墨文記述。内野壁も含む。	良好	金芸母	墨面石	5847
43-19	12	岡之原・ 泥質	(5.6) /—/—	内野壁が墨面である。外野壁は墨面記述。3条の墨面記述を有する。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5848
43-20	12	岡之原・ 泥質	(5.2) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	内野石・金芸母	片岩	5849
43-21	12	岡之原・ 泥質	(8.1) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5850
43-22	12	石質・ 泥質	長2.8/幅2.4/厚1.3 重量 12.6g。	キリバサギは1.9m×1.6m、口野外層は、内野壁が墨面である。1.9m上部に削除記述。ただしこれは外野壁に墨面記述を有する。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	—	墨面石	—	5851
44-23	12	岡之原・ 泥質	(12.8) /<29.2>/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	金芸母多面	墨面石	5852
44-24	12	岡之原・ 泥質	(5.9) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	片岩	石質/に沿うる窓	5853
44-25	12	岡之原・ 泥質	(7.3) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5854
44-26	12	岡之原・ 泥質	(8.2) /—/—	数枚。内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	金芸母・石質多面	墨面石	5855
44-27	12	岡之原・ 泥質	(4.0) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5856
44-28	13	岡之原・ 泥質	(11.5) /<24.0>/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5857
44-29	13	岡之原・ 泥質	(8.9) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	片岩	石質	5858
44-30	13	岡之原・ 泥質	(12.8) /—/—	内野壁が墨面である。窓枠に墨面記述を有する。内野壁と外野壁に墨面記述。内野壁も含む。	良好	金芸母	石質/窓	5859

44-31	13	獨立・單・ 複体	(3.7) /-/-	角形セーフの後をつ。角形の後をセーフが来る。口音上前に「次」の意味。 單の後をセーフが来る。それから「次」の間に、三文の意味が並ぶ。内 部は「次」の意味と外から「次」の意味に繋がる。内部は「次」にナシ。	良好	金沢語	地元/市内 に近い小町	銀行資料 (13種類)	S861
44-32	13	獨立・單・ 複体	(1.28) /-/-	單から「次」にならざる外に「次」を並べて、間に繋がる意味を表す。内部 は「次」の意味と「次」の意味に繋がる。内部は「次」にナシ。	良好	片言	明小町	銀行資料 (13種類)	S861
44-33	13	獨立・單・ 複体	(4.0) /-/-	「次」の意味と「次」の意味に繋がる。單から「次」に並び、外側 は部分的押しことなる。内部は「次」にナシ。	良好	石浜・金沢語	開港場/今町	銀行資料 (13種類)	S861
44-34	13	獨立・單・ 複体	(18.2) /-/-	外側で「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	金沢・石・ 角門石	銀行/金沢・ 石門/今町	銀行資料 (13種類)	S861
45-35	13	獨立・單・ 複体	(15.5) /-/-	外側で「次」が並ぶ。外側は「次」を並ぶ。複数の意味を表す。内部は「次」 が並ぶため、内部の意味は「次」である。内部は「次」にナシ。	良好	片言・ 角門石	銀行/今町	銀行資料 (13種類)	S861
45-36	13	獨立・單・ 複体	(1.33) /-/-	外側は横長形か角形が並ぶ。單面に「次」が並ぶ複数。單面に「次」が並ぶ。内部 はナシ。内部は「次」である。	良好	金沢語	開港場/今町	銀行資料 (13種類)	S861
45-37	13	獨立・單・ 複体	(20.9) /單 (15.4)	单 (13.6) が、左に並ぶ。「次」は平面で、単は「次」よりも一回近くなる。 单 (12.3) はナシ。内部は「次」である。	—	桂井御石庭山行	—	20% 好評。	S861
45-38	13	獨立・單・ 複体	(11.9) < 15.5 > /-	「次」が並び、左の意味が並んで来る。口音前面に「次」の意味と「次」の意味が並ぶ。 左の意味と「次」の意味が並んで来る。單面に「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	内門石	赤門	銀行/今町	S861
45-39	13	獨立・單・ 複体	(3.9) /-/-	「次」が並び、左の意味が並んで来る。單面に「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。 單面に「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	金沢田多羅	開港場/ 内門石	銀行資料 (13種類)	S861
45-40	13	獨立・單・ 複体	(1.86) /-/- 9.0 (合計)	「次」の意味は複数。外部は「次」が並ぶ。内部は「次」 が並ぶ。内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	内門石	赤門下/黒門	銀行資料 (13種類)	S861
45-41	13	獨立・單・ 複体	(7.30) /-/-	「次」の意味は複数。口音上前に「次」が並ぶ。外部は「次」 が並ぶ。内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	内門石	明小町	銀行資料 (13種類)	S861
45-42	13	獨立・單・ 複体	(5.5) < 26.0 > /-	「次」の意味は複数。口音上前に「次」が並ぶ。外部は「次」 が並ぶ。内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	石・内門石	石浜	銀行/今町	S861
45-43	13	獨立・單・ 複体	(5.1) /-/-	「次」の意味は複数。内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。 内部は「次」が並ぶ。内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	石浜	船/電線	銀行資料 (13種類)	S861
45-44	13	獨立・單・ 複体	(6.4) /-/-	「次」の意味は複数。内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	片言複體	明小町/ 内門石	銀行資料 (13種類)	S861
46-45	14	獨立・單・ 複体	(16.0) < 16.8 > /-	「次」は2つの意味がある。口音上前に「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。 その他の意味では「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	片言	赤門/開港	銀行資料 (13種類)~体感	S861
46-46	14	獨立・單・ 複体	(7.8) /-/-	「次」は2つの意味がある。内部は「次」にナシ。 内部は「次」が並ぶ。内部は「次」にナシ。	良好	片言	赤門/開港	銀行資料 (13種類)~体感	S861
46-47	14	獨立・單・ 複体	(4.7) /-/-	開港場による單面的な意味。單面の意味。開港場による單面的な意味。開港場による單面的な意味。 内部は「次」が並ぶ。	良好	石浜/石・赤門	赤門	銀行資料 (13種類)	S861
46-48	14	獨立・單・ 複体	(6.2) /-/-	口音部分が「ナ」にナリする。5条の意味を並ぶ。開港場による單面的な意味。内部は「次」が並ぶ。 内部は「次」が並ぶ。	良好	片言・小町	赤門	銀行資料 (13種類)	S861

出土遺物観察表							
測定項目	測定値	法規規範／目打／既往	既往	形状・形態	特徴	測定	備考
46-40	14	縄文土器・ 深鉢	51.8 / 44.2 / 15.2	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。また、本器は「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 75% 断続。
46-40	14	縄文土器・ 深鉢	(283)	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 75% 断続。
48-1	14	縄文土器・ 深鉢	(289) / 240 /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 75% 断続。
48-2	14	縄文土器・ 深鉢	(177) / <280> /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 75% 断続。
48-3	14	縄文土器・ 深鉢	(6.9) / <12.8> /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 75% 断続。
48-4	14	縄文土器・ 深鉢	(20.1) /— / <14.0>	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	片岩	口縁部・底部 50% 断続。
48-5	14	縄文土器・ 深鉢	(9.0) /— /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	内窓石	口縁部・底部 20% 断続。
48-6	15	縄文土器・ 深鉢	(8.5) /— /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 50% 断続。
48-7	15	縄文土器・ 深鉢	(10.0) /— /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	良好	金25時 金鑄 小鉢	口縁部・底部 50% 断続。
48-8	15	新石器期・ 打削石斧	—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	—	片岩	—
48-9	15	新石器期・ 打削石斧	(8.83) / (10.5) /—	円筒形の体部でタリーポイントを有する。山根一帯に実生する植物の一つ「外は口縁に内は花被」といって植生区分される。本器は外は口縁に内は花被の植物に由来する。	—	片岩	—

表 1 号遺物集中出土遺物

53-13	16	碑文・図版・ 浮鉢	(6.7) /~/-	上例「前」、外側に位置する。全体が直線的で、左側には「前」、右側には「左」の角の筋を含む。 下例文に示す。左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。三つの筋に「左」の筋が並んである。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。その後に「左」の筋が並んである。 外側には「左」の筋を含む。	良好	金芸回頭 内面	縦小開 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-14	-	碑文・図版・ 浮鉢	(9.0) /~/-<13.0>	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	内開石・金芸 石英	内開石・金芸 石英	縦25%窓E. 内開	1月通常集中
53-15	16	碑文・図版・ 浮鉢	(9.6) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	金芸頭・片引	縦左開・横右開 内開石・石英	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-16	16	碑文・図版・ 浮鉢	(6.5) /~/-	上例「前」、外側に位置する。この筋は、山形に「立交筋」が並んである。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	内開石・石英 片引	内開石・石英 片引	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-17	16	碑文・図版・ 浮鉢	(6.1) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	内開石・石英 片引	内開石・石英 片引	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-18	16	碑文・図版・ 浮鉢	(3.1) /~/-	上例「前」、外側に位置する。この筋は、山形に「立交筋」が並んである。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	石英	縦小開 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-19	16	碑文・図版・ 浮鉢	(10.9) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	内開石・片引	内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-20	16	碑文・図版・ 浮鉢	(6.7) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	石英の多い岩 片引・金芸	石英	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-21	16	碑文・図版・ 浮鉢	(4.6) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	片引・金芸 内開	片引・金芸 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-22	16	碑文・図版・ 浮鉢	(0.2) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	片引・チーク 石英	片引・チーク 石英	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-23	17	碑文・図版・ 浮鉢	(8.0) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	金芸頭・片引	金芸頭・片引	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-24	17	碑文・図版・ 浮鉢	(0.5) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	金芸頭・片引	金芸頭・片引	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-25	-	碑文・図版・ 浮鉢	(12.4) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	内開石頭 内開	内開石頭 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
53-26	17	碑文・図版・ 浮鉢	(18.3) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	内開	内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
54-27	-	碑文・図版・ 浮鉢	(11.0) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	金芸頭 内開	金芸頭 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
54-28	17	碑文・図版・ 浮鉢	(5.6) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	金芸頭・石英多量 内開	金芸頭・石英多量 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中
54-29	17	碑文・図版・ 浮鉢	(22.4) /~/-	左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。 左側には「前」、右側には「左」の筋を含む。	良好	金芸頭・石英多量 内開	金芸頭・石英多量 内開	縦けり骨料 (1.4mm) 内開	1月通常集中

54-30	17	網文土器・ 陶瓶	(10.4) /-/ -	細くて口が広い。外周はとある感覚で膨らむ。腹圍に引きをもつ形状が特 徴される。その下端は底が丸められたのち、往々的に底部が尖る。また下方に反折線が施 される。体部は直線的でさしきれが強めである。底部の構造は底付耳付新鋸。鏡文器。 外は網目テナ。	角閃石・石英 金剛石無	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-31	17	網文土器・ 陶瓶	(7.0) /-/ -	細長く、身幅は頭部より狭くなる。外周は直線的である。鏡文器。 外は網目テナ。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-32	-	網文土器・ 陶瓶	(5.5) /-/ -	直筒形に分かれており、3-4部位の腰に膨らむ感覚。身幅・頭部・底部L脚文器。 鏡文器。一例として見るよ。である。外周とも直線的。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-33	-	網文土器・ 陶瓶	(18.9) /-/ -	体一面においてはよくあるよ。である。外周は直線的。鏡文器。 外は底による直線的な文様。又横筋による直線的な文様もあり。底部附近に4条の横 筋がある。外周面も直線的。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-34	17	網文土器・ 陶瓶	(4.6) /-/ -	天井形腰付。外周は網目テナ。内面は直線的な文様。外は斜方彫刻ナデ。底部 は斜方彫刻ナデ。外周は直線的な文様。外周は網目テナ。内面は直線的な文様。外は斜方彫 刻ナデ。底部は斜方彫刻ナデ。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-35	-	網文土器・ 陶瓶	(6.4) /-/ -	キャリーハンドル付きの直筒形。自転車形が似ている。外周は直立する口部に向 いて3-4条の横筋があり。頭部L脚。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-36	17	網文土器・ 陶瓶	(7.4) /-/ -	長2.1・幅1.4・厚0.5 RL直筒形。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-37	17	石器右腕輪・ 石器	長3.4・幅(4.3)・厚0.9 RL直筒形。	-	黒色安息香	-	完E。	1号遺物室(中)
54-38	17	網文土器・ 陶瓶	長1.3・幅3.2/厚2.3 RL直筒形。	直筒形。横2.2ないし縦3.2。外周に4-5条の横筋があり。頭部L脚。 外周は網目テナ。内面は直線的な文様である。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
54-39	17	網文土器・ 陶瓶	長1.0?・幅7.6/厚5.7 RL直筒形。	直筒形。横2.2ないし縦3.2。外周に4-5条の横筋があり。頭部L脚。 外周は網目テナ。内面は直線的な文様である。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
55-40	17	網文土器・ 陶瓶	長1.0?・幅8.1/厚7.2 RL直筒形。	直筒形。横2.2ないし縦3.2。外周に4-5条の横筋があり。頭部L脚。 外周は網目テナ。内面は直線的な文様である。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
55-41	-	網文土器・ 陶瓶	長1.0?・幅8.1/厚7.2 RL直筒形。	直筒形。横2.2ないし縦3.2。外周に4-5条の横筋があり。頭部L脚。 外周は網目テナ。内面は直線的な文様である。	角閃石 長石・角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	1号遺物室(中)
2号遺物集中出土遺物解説表								
解説No.	解説名	器種	法面(表面)・裏面(裏)	特徴(表面・裏面)	地質	断土・材質等	色調(外側・内側)	備考
57.1	17	網文土器・ 陶瓶	(4.7) /-/ 6.9	外周は直線から斜にして下がる直筒形。外周が下がる直筒形の特徴による直筒形。 鏡文器。鏡文器の頭部は直線的。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.2	17	網文土器・ 陶瓶	(13.0) /-/ 9.9	鏡文器。鏡文器の頭部は直線的。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.3	17	網文土器・ 陶瓶	(14.6) /-/ 9.8	体上部であるあたりから、外れるする。鏡文器。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.4	17	網文土器・ 陶瓶	(6.4) /-/ <12.0>	外は鏡文による直筒形。直筒形が付いている。中腹は鏡文。鏡文器。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石・片岩	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.5	17	網文土器・ 陶瓶	(6.5) /-/ <12.3>	外は鏡文による直筒形。直筒形が付いている。中腹は鏡文。鏡文器。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.6	17	網文土器・ 陶瓶	(8.7) /-/ -	上部に斜行を付ける。外周は直線から斜行する。鏡文器。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.7	17	網文土器・ 陶瓶	(20.5) /-/ 26.0 />-	鏡文器は直線から斜行する。中腹は鏡文。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)
57.8	17	網文土器・ 陶瓶	(7.8) /-/ -	鏡文器は直線から斜行する。中腹は鏡文。鏡文器の頭部は直線的。外周は網目テナ。	角閃石 長石	明石城／昭和 織田資料(休憩)	織田資料(休憩)	2号遺物室(中)

58-9	18	周文・周・ 河林	(4.0) /-/-/-	外山は解説。内山は4種の鳥類の学名を文で記す。外山は鶴類・群 合子。内山は鶴・群合子。	良好	金沢御用箋	明小閑	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-10	18	周文・周・ 河林	(5.3) /-/-/-	5種の鳥類の学名を文で記す。その後、その上に平行行文がある。そ の後、内山は「解説」。内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	金沢母・石斑魚等	金沢母・黒鶲	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-11	18	周文・周・ 河林	(6.2) /-/-/-	外山は「解説」。外山は「子」。	良好	角門石・白鷺	角門石・白鷺	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-12	18	周文・周・ 河林	(4.8) /-/-/-	キリハ・ヨウジ・ヒメ・カツラ・シロハシの学名を文で記す。内山は「解説」。 内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	白鷺	白鷺	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-13	18	周文・周・ 河林	(8.0) /-/-/-	10種の鳥類の学名を文で記す。内山は「解説」。	良好	金沢母多鶴	明小閑・金沢母	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-14	18	周文・周・ 河林	(10.7) /-/-/-	12種の鳥類の学名を文で記す。内山は「解説」。	良好	金沢母・石斑	金沢母・石斑	織り言葉 (1種類～体感)	2月通常集中	
58-15	18	周文・周・ 河林	(15.8) /-/-/-	キリハ・ヨウジ・ヒメ・カツラ・シロハシの学名を文で記す。内山は「解説」。 内山は「解説」。	良好	白鷺	白鷺	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-16	18	周文・周・ 河林	(5.6) /-/-/-	小火鳥・三角の歌謡を文で記す。内山は「解説」。	良好	金沢母	金沢母	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-17	18	周文・周・ 河林	(9.6) /-/-/-	小火鳥・白鷺の歌謡を文で記す。内山は「解説」。	良好	角門石	角門石	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-18	18	周文・周・ 河林	(9.3) /-/-/-	外文する「田畠」。田畠・山・畠・水を文で記す。内山は「解説」。	良好	金沢母多鶴	明小閑	織り言葉 (1種類)	2月通常集中	
58-19	18	周文・周・ 河林	(5.1) /-/-/-	内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	角門石・片穴	角門石・片穴	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-20	-	周文・周・ 河林	(6.8) /-/-/-	内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	金沢母	金沢母	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-21	18	周文・周・ 河林	(7.7) /-/-/-	内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	金沢母	金沢母	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-22	-	周文・周・ 河林	(6.4) /-/-/-	内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	片穴	片穴	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-23	-	周文・周・ 河林	(7.6) /-/-/-	内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	角門石・黒鶲	角門石・黒鶲	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
58-24	18	周文・周・ 河林	(12.0) /-/-/-	内山は「解説」。内山は「解説」。	良好	金沢母	金沢母	織り言葉 (体感)	2月通常集中	
59-25	18	解石/白鷺・ 河林	(3.1) /解2.0/解0.4	解石 (1.8) -・四鷺 (1.8) -・四鷺 (1.8) -・四鷺 (1.8) -	—	チート	—	御門石・大根	2月通常集中	
59-26	18	解石/白鷺・ 河林	長11.7・幅6.8・厚4.9	解石 (1.8) -・四鷺 (1.8) -・四鷺 (1.8) -・四鷺 (1.8) -	—	御門石・白鷺	—	御門石・白鷺	2月通常集中	
59-27	18	解石/白鷺・ 河林	長10.5・幅6.4・厚3.25	解石 (1.8) -・四鷺 (1.8) -・四鷺 (1.8) -・四鷺 (1.8) -	—	御門石・白鷺	—	御門石・白鷺	2月通常集中	

その他の時代土坑出土遺物調査表

井戸番号	井戸名	法眼高さ (cm)	井戸名 (井戸番号)	井戸名 (井戸番号)	井戸名 (井戸番号)	井戸名 (井戸番号)	井戸名 (井戸番号)	井戸名 (井戸番号)	井戸名 (井戸番号)	備考
66-1	-	通路・通か	(1.8) /-/-/-	注記。窓か。内山に「気泡が付け」。口縁部には「下向きの川字状構造」。窓か。内山には「下向きの川字状構造」。	—	—	—	—	—	\$660

遺構外出土遺物観察表

標印No.	目録No.	品種	法面 高さ / 法面 幅さ (cm)	特徴 (形態・手法)	出土・埋置	出土・埋置	出土・埋置
67. 1	18	獨立・圓・ [284]	(18.7) / < 34.4 > / -	口縁が内側へ、體になると出される。表面は凹凸の無い平滑な表面。文様は「山雲龍」で模様が描かれる。前面・後面とも「山雲龍」文様。 前面R・後面L文様。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・金型多面 石英	[山雲龍] - 体部 25% 破片。 [山雲龍] 1 個 1/2 鏡打と「山雲龍」 鏡合意面。
67. 2	19	獨立・圓・ [284]	(10.5) / - / -	キリバサギを模した口縁。文様は「山雲龍」で模様が描かれる。前面は鏡打テナ。後67.1同上。後67.4。 <td>直角 直角・金型多面 直角</td> <td>箱小箱 石英・金型多面 石英</td> <td>2.54 [K-F 16]</td>	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・金型多面 石英	2.54 [K-F 16]
67. 3	19	獨立・圓・ [284]	(6.0) / - / -	半丸紐で縦筋が走る。正面は鏡打テナ。後67.1同上。後67.4。 <td>直角 直角・金型多面 直角</td> <td>箱小箱 石英・金型多面 石英</td> <td>2.54 [K-F 16] [中綱目] [中綱目]</td>	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・金型多面 石英	2.54 [K-F 16] [中綱目] [中綱目]
67. 4	19	獨立・圓・ [284]	(6.8) / - / -	半丸紐で縦筋が走る。平行線で横筋を形成する。鏡打文を施す。前面は鏡打テナ。後67.1同上。後67.4。 <td>直角 直角・金型多面 直角</td> <td>箱小箱 石英・金型多面 石英</td> <td>2.54 [K-C 11]</td>	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・金型多面 石英	2.54 [K-C 11]
68. 5	19	獨立・圓・ [284]	(15.9) / < 27.8 > / -	内側には細かい突起があり。口縁は「山雲龍」で模様が描かれる。表面は鏡打テナ。前面は鏡打テナ。 後67.1同上。後67.4。 <td>直角 直角・金型多面 直角</td> <td>箱小箱 石英・白色小漆 直角</td> <td>[山雲龍] - 体部 30% 破片。 [山雲龍] - 体部 70% 破片。</td>	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白色小漆 直角	[山雲龍] - 体部 30% 破片。 [山雲龍] - 体部 70% 破片。
68. 6	19	獨立・圓・ [284]	(23.9) / 27.4 / -	内側には細かい突起があり。口縁は「山雲龍」で模様が描かれる。表面は鏡打テナ。前面は鏡打テナ。 後67.1同上。後67.4。 <td>直角 直角・金型多面 直角</td> <td>箱小箱 石英・白色小漆 直角</td> <td>5872</td>	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白色小漆 直角	5872
68. 7	19	獨立・圓・ [284]	(28.4) / < 20.2 > / -	外側の口縁は無く、外側には鏡打文。外側にはより細かな下口縁がある。前面・後面ナゲ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-H 14]
68. 8	19	獨立・圓・ [284]	(11.3) / < 22.0 > / -	外側の口縁は無く、外側には鏡打文。前面は鏡打テナ。内側には鏡打文。 <td>直角 直角・金型多面 直角</td> <td>箱小箱 石英・白石 直角</td> <td>2.54 [K-H 14]</td>	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-H 14]
68. 9	-	獨立・圓・ [284]	(5.7) / - / 8.0	外側は複数の鏡打文による模様が走る。鏡打文は「山雲龍」で模様が描かれる。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-F 12]
68. 10	19	圓・圓・ [284]	(7.6) / - / 6.8	交差する口縁。外側の口縁は無く、外側には鏡打文。内側には鏡打文。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-G 12]
68. 11	-	獨立・圓・ [284]	(6.9) / - / < 12.0 >	無く、外側は斜め口縫。斜め口縫の端は「山雲龍」で模様が描かれる。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-C 13]
68. 12	19	獨立・圓・ [284]	(7.8) / - / -	直角口縫と斜め口縫の組合せ。前面は鏡打文。内側には鏡打文。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-C 12]
68. 13	19	獨立・圓・ [284]	(6.7) / - / -	直角口縫と斜め口縫の組合せ。前面は鏡打文。内側には鏡打文。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-C 16]
68. 14	19	獨立・圓・ [284]	(5.5) / - / -	直角口縫と斜め口縫の組合せ。前面は鏡打文。内側には鏡打文。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-H 12]
68. 15	19	獨立・圓・ [284]	(8.2) / - / -	内側には鏡打文が施される。「山雲龍」で模様が描かれる。前面は鏡打テナ。 内側には細かい突起がある。前面は鏡打テナ。	直角 直角・金型多面 直角	箱小箱 石英・白石 直角	2.54 [K-F 12]

68-16	19	周文・ 深林	(5.9) /-/-	外側を表す。裏側は「外2重」重複した面が並ぶ中に、斜めの方向に斜めを交叉し、「逆向のよい」外側を表す。裏側は「外2重」重複した面が並ぶ。この「外2重」の裏側が裏側。	良好	全表面	にぶい・赤褐色	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H12]
68-17	19	周文・ 深林	(6.7) /-/-	上部は肥厚する。口凹部外に直径約1.1cmの横溝がある。円柱状の斜め溝、弦縫による斜めな溝があり、Y字の端が開けている。内側は輪郭線ナット。	良好	角閃石・小頭 にぶい・小頭	織り目質 (C1級品)	2-54[K-F11]	
68-18	19	周文・ 深林	(5.7) /-/-	表面は肥厚する。口凹部外に直径約1.1cmの横溝がある。円柱状の斜め溝、弦縫による斜めな溝があり、Y字の端が開けている。内側は輪郭線ナット。	良好	全表面多量 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-F12]	
68-19	-	周文・ 深林	(7.2) /-/-	口凹部外に輪郭線ナットと輪郭溝がある。輪郭溝は輪郭線ナットと輪郭溝をなしている。内側は輪郭線ナット。	良好	片岩・石英 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-F11]	
69-20	19	周文・ 深林	(3.9) /-/-	尖をつける。輪郭溝は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	石英・全表面 にぶい・小頭	織り目質 (C1級品)	2-54[K-C14]	
69-21	19	周文・ 深林	(11.6) /-/-	外側する口凹部。輪郭溝に輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	全表面多量 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H12]	
69-22	19	周文・ 深林	(4.8) /-/-	内側は口凹部による渋谷。輪郭溝は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	角閃石 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-F13]	
69-23	19	周文・ 深林	(7.0) /-/-	山の尖をつける。輪郭溝は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	石英・全表面 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-F13]	
69-24	19	周文・ 深林	(0.2) /-/-	山尖が尖る。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	長石 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H17]	
69-25	-	周文・ 深林	(4.7) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	全表面・長石複合 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-E13]	
69-26	19	周文・ 深林	(3.5) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	金雲母 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-L15]	
69-27	19	周文・ 深林	(7.4) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	角閃石・長石 滑水端・輪郭溝端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-G13]	
69-28	-	周文・ 深林	(10.4) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	片岩・金雲母複合 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H12]	
69-29	20	周文・ 深林	(10.1) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	角閃石・長石 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-C13]	
69-30	20	周文・ 深林	(8.7) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	金雲母・輪郭溝 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-E13]	
69-31	20	周文・ 深林	(11.1) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H13]	
69-32	-	周文・ 深林	(10.0) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	角閃石 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H12]	
69-33	-	周文・ 深林	(5.0) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	石英 滑水端	織り目質 (C1級品)	S632	
69-34	20	周文・ 深林	(7.6) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	金雲母多量 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-F16]	
69-35	20	周文・ 深林	(6.2) /-/-	内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。内側は輪郭溝と輪郭溝をなしている。	良好	角閃石 滑水端	織り目質 (C1級品)	2-54[K-H16]	

69-36	20	獨立石碑・ 石碑	(6.3) /-/-	体部が尖って傾斜する。2、3枚の板状とする。側面は直線的で、頂部は傾斜が大きい。表面は中間に凹凸がある。表面は無地とする。側面は直線的で、頂部は傾斜が大きい。表面は無地とする。	良好	平面	平面	紙片資料(体部)	2-54(E) 13
70-37	20	獨立石碑・ 石碑	(5.3) /-/-	外壁は側面の傾斜により傾斜部は「分岐する」形である。側面は直線的で、頂部は傾斜した内側面は圓錐形の傾斜部。下部は、次による特徴的な文様、単節状、幾何文。外壁はナメル。	良好	石英	細粒	紙片資料(体部)	2-54(E) 16
70-38	20	獨立石碑・ 石碑	(6.2) /-/-	体部が尖る。角部に凹よる。(H、V)字形、單足ある文様、単節状文様。外壁はナメル。	良好	角閃石	粗粒	紙片資料(体部)	67 E-レジナ
70-39	20	獨立石碑・ 石碑	(6.2) /-/-	外壁は全般的に下斜面を有し、その上に平行して側面を施す。側面を有する。その下に下斜面を有する。側面は無地とする。側面は無地とする。	良好	金云母・角閃石	粗粒	紙片資料(体部)	2-54(E) 12
70-40	20	獨立石碑・ 石碑	(4.0) /-/-	外壁は側面と傾斜する文様、これが同じ側面を切る文様。この中に単節状やV字形を有する。側面はナメル。	良好	金云母	粗粒	紙片資料(体部)	2-54(E) 13
70-41	20	獨立石碑・ 石碑	(4.0) /-/-	外壁はウナギの頭部を施す。側面はナメル。外壁はウナギの頭部を施す。側面はナメル。外壁はウナギの頭部を施す。側面はナメル。	良好	滑面無理	粗粒	紙片資料(体部)	72 E-レジナ
70-42	20	斜片石碑・ 石碑	(1.9) /-/-	側面は斜面を有する。側面は無地とする。	-	チート	-	紙片資料(体部)	2-54(E) 10
70-43	20	斜片石碑・ 石碑	(1.9) /-/-	斜片石碑・ 石碑	-	黑曜石	-	紙片資料	調査用
70-44	-	斜片石碑・ 石碑	(1.4) /-/-	斜片石碑・ 石碑	-	黑曜石	-	紙片資料	2-54(E) 12
70-45	20	斜片石碑・ 石碑	(長2.9) /-/-	斜片石碑・ 石碑	-	黑曜石	-	紙片資料	2-54(E) 13
70-46	20	斜片石碑・ 石碑	(1.6) /-/-	斜片石碑・ 石碑	-	黑曜石	-	紙片資料	2-54(E) 12
70-47	20	打製石碑・ 石碑	(3.3) /-/-	打製石碑・ 石碑	-	黑曜石	-	紙片資料	2-54(E) 16
70-48	20	磨研石磨石 長	(18.1) /-/-	磨研石磨石 長	6.3 /-/-	磨研石磨石 長	-	紙片資料	2-54(E) 14
70-49	20	磨研石磨石 長	(16.0) /-/-	磨研石磨石 長	6.0 /-/-	磨研石磨石 長	-	紙片資料	2-54(E) 13
70-50	20	磨研石磨石 長	(15.3) /-/-	磨研石磨石 長	5.9 /-/-	磨研石磨石 長	-	紙片資料	2-54(E) 14
70-51	20	磨研石磨石 長	5.1 < 8.2 >	磨研石磨石 長	1.409	磨研石磨石 長	-	紙片資料	2-54(E) 14
70-52	20	合瓦	合28 /-/-	合28 /-/-	5.1 < 8.2 >	合28 /-/-	合28 /-/-	元代	元代